縞

——その19——

松井源吾　編著

縞

——その19——

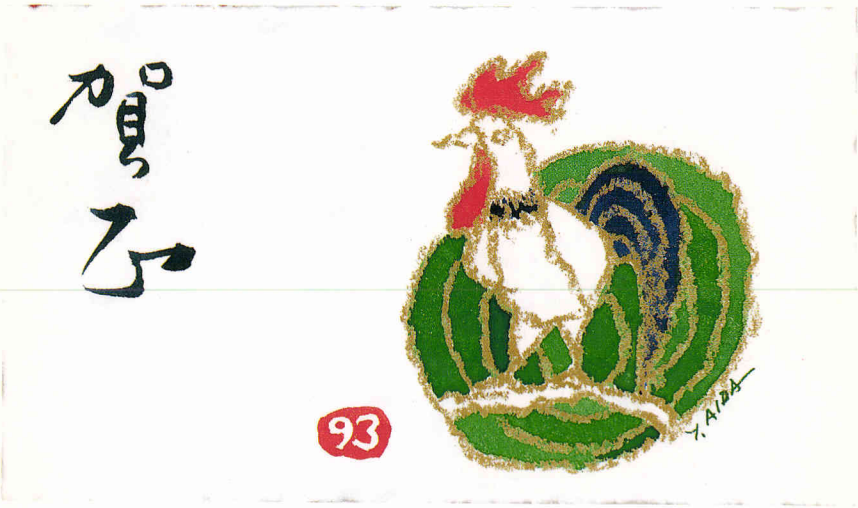
松井源吾　編著

目　次

1. 賀　状 …… 1
2. 新御所竣工 …… 8
3. 江戸・東京博物館竣工 ……11
4. 東京本願寺牛久阿弥陀大仏設計概要（永田良夫） ……16
5. 木造雑話 ……27
6. コンクリートスラブ雑話 ……33
7. 構造を見せる ……35
8. 叔父死去 ……37
9. 学会賞受賞 ……45
10. 25年前の学会賞受賞 ……58
11. 住吉さん建築文化賞受賞 ……62
12. サルバドリー教授の受賞 ……68
13. 菊竹清訓展 ……72
14. 第3回松井賞授賞式 ……77
15. 駐日ハンガリー大使ラーツ博士 ……82
16. 難波君とミクラス教授よりの手紙 ……87
17. 楊君の事務所 ……91
18. 古いアルバムより ……93
19. 最近のアルバム ……96
20. 雑　談 ……107

著者略歴

1. 賀　状



ブラジル　相田祐弘氏より

Dear Prof. Matsui

We have been so very busy! Still, how
to have the opportunity to see you in Japan,

May the joy of Christmas
stay with you throughout the New Year

Les Saw-Teen

Karla Mei

Les Robertson, Saw-Teen See & Karla Mei
55 Bogus Hill Road
New Fairfield, CT 06812

新春のお喜びを申上げます。

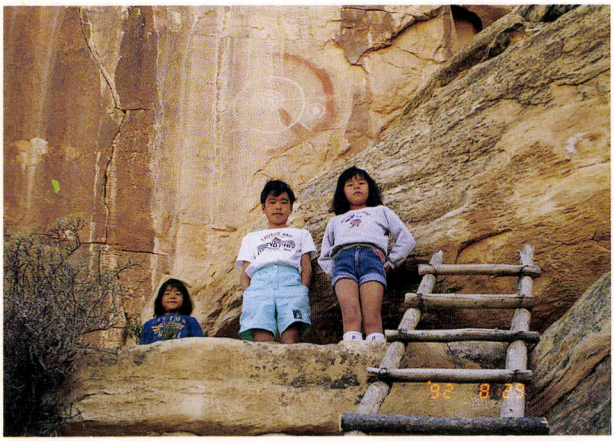
三月に未完成のままの新居に移り、クリスマス前にやっと自分の設計どうりに完成。ハートウエル湖を眼下に、リス、鹿、鷹に囲まれ、一家三人恵まれた環境に感謝しつつ各々の道に励んでおります。

アメリカにお越しの折、私共までお立ち寄りいただければ幸です。

皆様の益々の御健勝をお祈り申し上げます。

平成五年元旦

岸本雄二
俊子
今日
（十六才）



Peace and Prosperity

新年明けましておめでとうございます。

家族で過ごしたアメリカ生活も３年が過ぎましたが、新年早々に帰国と決まりました。
写真はイエローストーン国立公園の帰りに立ち寄った恐竜国立記念公園の近くで見つけたアメリカインデアンの壁画を見に行った時のものです。崖道を１時間ばかり杖をついてたどり着いた所にあった壁画はあまりにも粗末に放置されていたので、その真贋のほどは疑問に思いましたが家族一緒でのハイキングは楽しいものでした。
この様に楽しい思い出が多いアメリカを離れることは非常に残念ですが、また訪れる日が或ることを楽しみにしております。
日本での住所は下記の通りです。

〒２４１　横浜市旭区万騎が原　５７

本年も良いお年をお迎え下さい。今後も宜しくお願い致します。　　１９９３年１月１日

杉山克己・光江・大樹（１２才）・直子（８才）・裕子（６才）

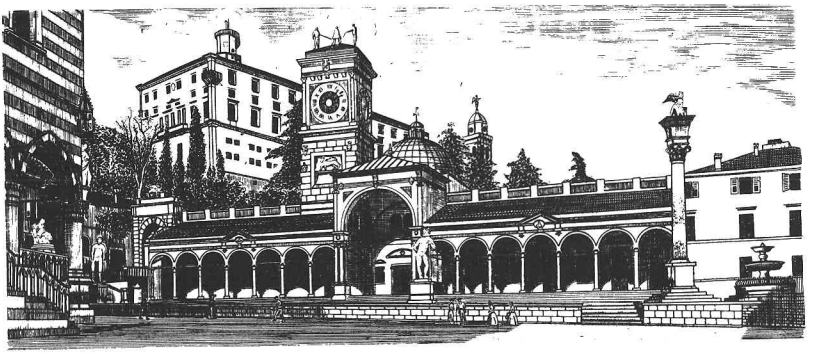
Mr Mario G Salvadori
2 Beekman Pl
New York NY 10022-8058

Prof. Gengo MATSUI
3-4-1 OKUBO
SHINJUKU
TOKYO
(Japan)

Xmas, 1992

The very best
for 1993

from
Mario Salvadori



Udine - Piazza della Libertà

10/12/1992

Dear Professor Matsui,

Thanking again for your kind hospitality what I enjoyed in this Summer I whish you good health and a happy New Year!

With my kindest regards

yours sincerely

Sándor Kalisky

寒中御見舞申しあげます

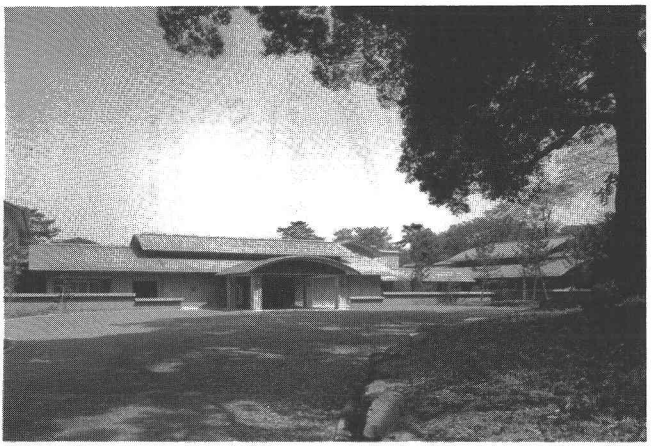
菊竹清訓 KIKUTAKE Kiyonori

春夏秋冬の一年の運行に則って 新芽を出し やがて紅葉し散ってゆく樹の葉のように
住居単位は 人間家族と運命を共にするであろう。(メタボリズム1960 より抜粋)

松井源吾先生

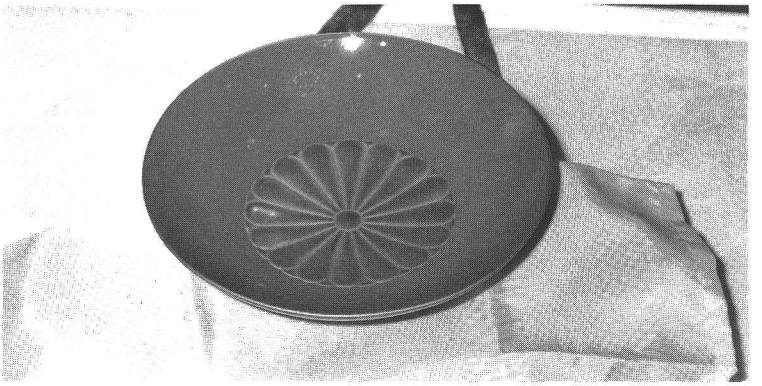
ご壮健を心より祈念いたします。

2.　新御所竣工



御車寄

広間



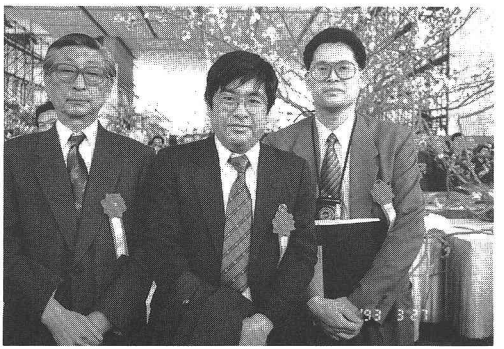
御下賜の木盃

御下賜の清酒でORSの宴会
宮内庁の方々と
(93. 5. 21　目黒雑魚屋)

二次会　わが家

3. 江戸・東京博物館竣工

竣工式（93. 3. 27）



東京都江戸東京博物館を支える構造形式

鈴木孝夫

●構造方式

図1に5階伏図，図2～4に主な軸組図を示す。本建物は地下1階地上7階塔屋1階建て，最高高さ62.2 mとなっており，地下1階より材丈，材幅ともに14.4 mのH型断面状の大型柱4本を設け，3階の屋外催し物広場である約14 000 m²のプラザから収蔵庫のある4階床までの約20 mの吹抜けを介し，158.4 m×64.8 mの平面の4階以上の高層部を支えている。高層部はメインの展示スペースである5階床から約26 mの吹抜けを介し，トラス屋根を設けている。建物を全体的にみると大きな2層建ての構成になっている。高層部の建物の重量の大部分が中間層である4階の収蔵庫，5階の展示室に集中しており，頂部は軽い。建物の剛柔比のバランスを取るため，4本の大型柱は地下1階から6階床までをSRC造とし，それ以上をS造とした。大型梁は地下1階より基礎梁である下段の梁をSRC造とし4・5階または5・6階に設けた中段の梁およびPH1階からPHR階に設けた上段の梁はS造とした。

大型柱の位置について，長期荷重時に生じる柱の曲げモーメントを少なく押えるために4・5階に1層より成る小梁を短辺方向に設け，長辺方向には片持ち架構を設け，片持ち部分と柱間の荷重のバランスをとるようにした。

長辺方向は主架構としてA，J通りと，C，H通りの4架構からなり，大型柱のフランジ面と，1層の成からなる下段・中段・上段の大型梁より大架構を形成し，片持ち部分は中段の大型梁を大型柱心より43.2 m持ち出し，外側のA，J架構には大型柱より斜めの吊り材を設けた。

短辺方向は主架構として大型柱を強軸の向きとし7，17通りの2架構からなる。架構形状は長辺方向と同様に2本の大型柱のウェブ面と下段・中段・上段に設けた大型梁により大架構を形成している。4・5階の大形柱の外側に，東西方向に43.2 mはねだした片持ち架構は，A，J通りの大型柱より設けた，1層分の成をもつ大型梁およびその吊り材，C，H通りの大型柱より設けた1層分の成をもつ大型柱，およびC～H通り間に2架構設けた1層分の成をもつ小梁によって支持した。

またその先端部分には，片持ちの架構の剛性を確保し，A，J通りに鉛直荷重を伝達させる逆アーチ架構を設けた。

片持ち部分の屋根（傾斜屋根）は，面内剛性の確保および，先端に設けた逆アーチ架構の上弦材の座屈防止のために，A～C通り間，H～J通り間および先端の屋根面内に水平ブレースを配置した。

鉄骨部材については，大型柱を構成する鉛直材（主要断面BH-800×800×80×80），水平材，ブレース材，トラス梁の弦材（主要断面BH-900×600×40×80），および腹材，片持ち部分の吊り材等には組立H型鋼を用いた。また上・中・下段のトラス梁，片持ち部分の逆アーチ架構等の一部は王字形の組立材とした。

鋼材の種類は，板厚40 mm以下はSM 490 A，40 mmを超えるものはTMCP鋼とした。

●耐震設計方針

両国近辺で観測された地震波のスペクトルには，1.0～1.2 Hzのところにピークがある。

一般的に高さ60 m程度の建物の1次の固有振動数は0.6～0.8 Hz程度となるが，基本方針として建物の1，2次の固有振動数をこの領域からずらすこととした。そのためには建物の剛性を一般的な物より柔らかくするか，逆に硬くするかである。柔らかくすると大スパンのため長期荷重時の変形が大きくなり，建物の使用上の問題が生じる可能性があると判断した。この建物では剛性を硬くすることとし，1次の固有振動数を1.5 Hzより硬くする方針をたてた。この建物の1次固有振動数は短辺方向2.1 Hz，長辺方向1.8 Hzとなっている。

耐震設計は，静的解析および地震応答解析を行った。地震応答解析に用いた振動モデルは，1階床を固定とし，各床の主な通りの交差位置に質量を集中させたものとした。入力地震動はレベル1で250 gal，レベル2で500 galとし，水平方向および鉛直方向同時記録を用い水平・上下方向を同時に，解析を行った。

大型柱については，最大級の地震に対して鉄骨鉄筋コンクリート部分は塑性域に入ることを許容したが，鉄骨造部分については単材を組み合わせたトラス構造であり，各単材は軸力が支配的となっているため，弾性範囲にとどめた。

大型梁についても大型柱と同様にした。

●制震装置

一般に大架構建築物においては，地震による上下動の検討を行う必要があるが，大地震時においても展示物を震災から守るという立場に立ち，片持ち部先端2 800 m²の二重床内に，上下動制震装置を組み込んだ。装置の主な設計方針を以下に示す。

❶――上下方向に1 Hz以下の振動数とする

❷――人間の歩行・展示移動に対するレベル調整機能をもたせる

❸――水平方向のせん断力は直下の

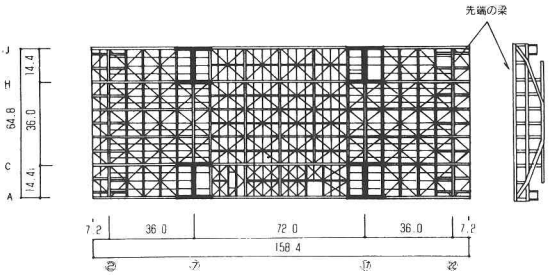


図1　5階伏図　S=1:2.2

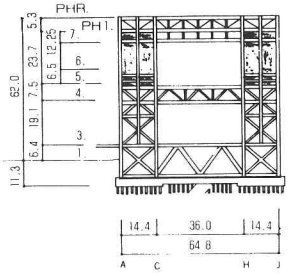


図2　7通り軸組図　S=1:2.2

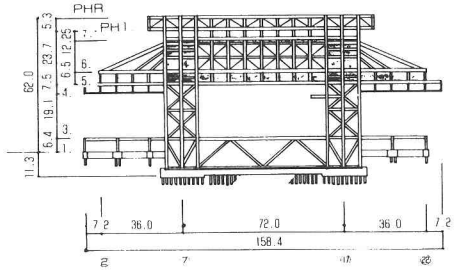


図3　A通り軸組図　S=1:2.4

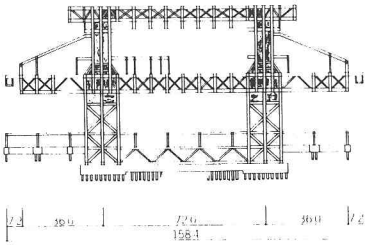


図4　C通り軸組図　S=1:2.4

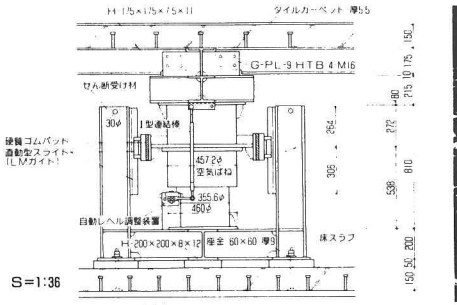
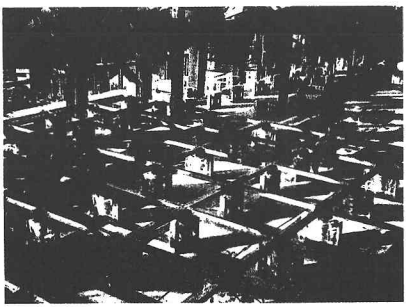


図5　制震装置（特許申請中）



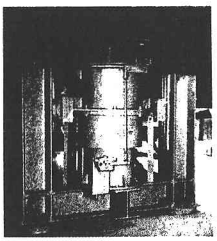
制震装置配置**

床に伝える

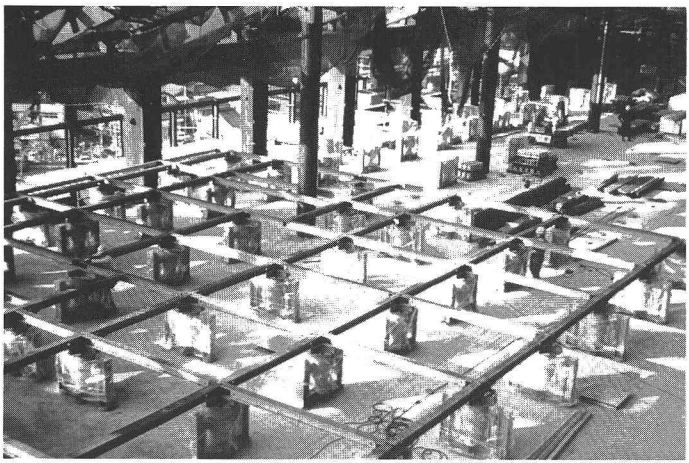
❹……装置の上下方向最大ストロークは18cm以上とする

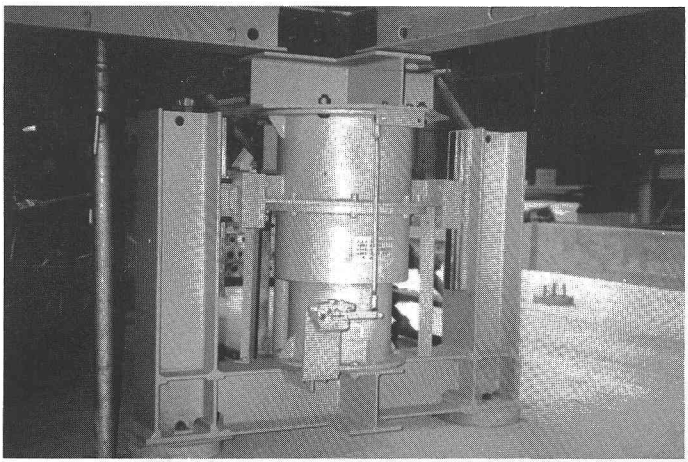
以上の設計条件を満足した空気ばね，油圧ダンパ，せん断力受け材を組み合わせた上下動制震装置を東西各々126台ずつ計252台設置した。これにより中・小の地震から大地震の上下動を1／4程度までに低減する。水平方向の地震力は，直動型スライドを介しせん断受け材へ伝達され，構造床へと伝えられる。また，展示物の模様替えや見学者の大量移動による荷重の変化に対しても床が常に一定のレベルを保つよう自動レベル調整装置を装備している。

（すすき　たかお，
松井源吾＋O.R.S. 事務所）



制震装置本体**





4.　東京本願寺牛久阿弥陀大仏設計概要

川田工業株式会社　永田良夫

1．はじめに

本物件は、青銅製の立像として屋外に自立する超大型の阿弥陀如来像であり、その高さは仏身 100m、基壇・蓮台を含めて合計 120mとなる大規模なものである。

このような特殊な物件の計画にあたっては、通常の建築物には無い数々の解決すべき課題が有ったが、常に我々の念頭にあったのは「如何に造るか」というテーマであった。従って従来の設計と施工の垣根にとらわれずに仕事を進めてきた。

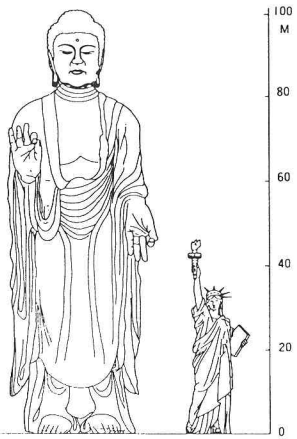
特徴と与条件

・仏像の原型は東京本願寺の御本尊であり、高さ 1mの阿弥陀如来像である。この複雑で微妙な曲線を有する像を 100倍したものである。

・像の高さが 120mにも及ぶため、その施工方法は安全なものでなければならない。しかも高所での作業は天候に大きく左右されるため、工程管理に影響が出やすい。

・仏像の外装は青銅製の銅板で、これは鋳造により厚さ 6mmとなっている。1枚の大きさは約 1.5m×1.5mであり、総数は約 6,000枚になる。

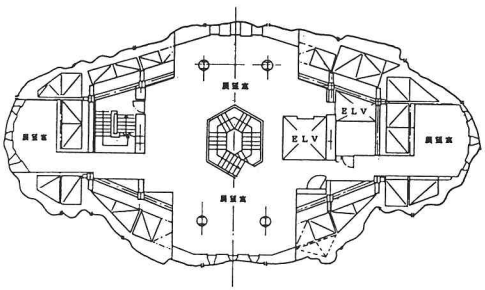
・仏像の基準モデル（高さ 10m）の製作と銅板の鋳造組立は、既に施主から台湾の業者に分離発注されており、モデルの製作と銅板の鋳造は台湾にて行なう。



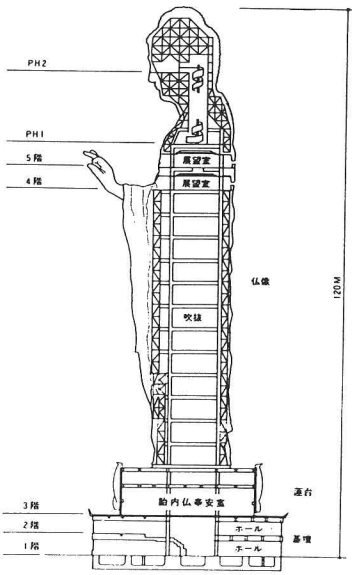
牛久大仏と自由の女神の大きさ

2．建築概要

建築主	浄土真宗 東本願寺派本山 東京本願寺
設計・監理	川田工業一級建築士事務所
施工	川田工業株式会社
建築場所	茨城県 牛久市 久野町 2131
敷地面積	364,245.00㎡
建物規模	
階数	地上５階　　塔屋２階
建築面積	1,554.68㎡
延床面積	3,995.42㎡
最高高さ	120m
工期	着工　1988年 5月
	竣工　1993年 6月



展望階(80.0m)平面図



断面図

3．構造概要

基礎構造

杭種別　　場所打ちコンクリート杭（拡底杭）

杭径　　2,300φ（3,000φ），1,800φ（2,300φ），1,600φ（2,100φ）

先端深さ　　GL-23.2m

許容支持力　　長期　1,320ｔ/本（3,000φ）
755ｔ/本（2,300φ）
625ｔ/本（2,100φ）

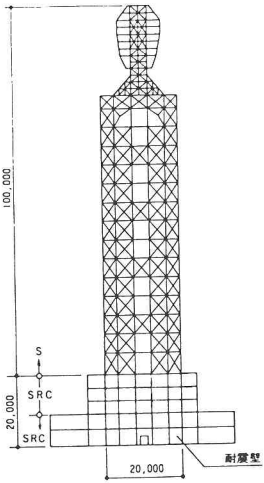
本体構造

構造種別　　仏像部　：鉄骨造　ブレース付ラーメン構造
基壇・蓮台部：鉄骨鉄筋コンクリート造　耐震壁付ラーメン構造

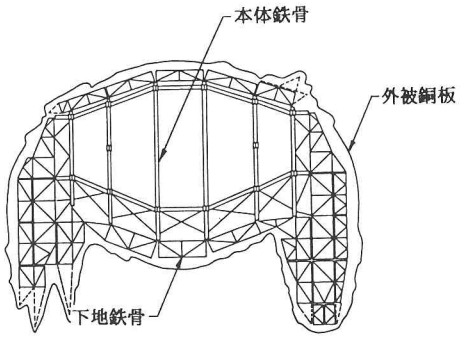
使用材料			
鉄骨	柱	組立箱型鋼、組立Ｈ型鋼	SM50A
	梁	組立Ｈ型鋼、Ｈ型鋼	SM50A、SS41
	ブレース	組立Ｈ型鋼、Ｈ型鋼	SS41
コンクリート	基壇、蓮台	Fc=240kg/cm²	
	4、5、PH 階	Fc=210kg/cm² （γ=1.85）	
鉄筋		SD30A、SD35、SD40	

耐震性判定基準

	レベルⅠ　25kine	レベルⅡ　50kine
構造部材	許容応力度以内 変位角 1/200以内	弾性限度内 変位角 1/100以内



主体架構スケルトン

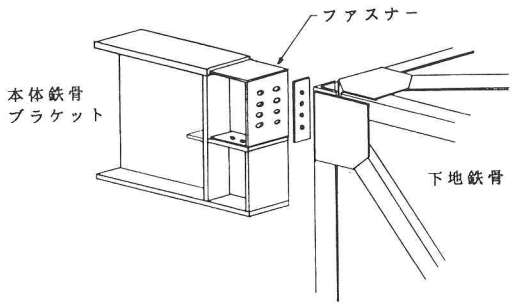


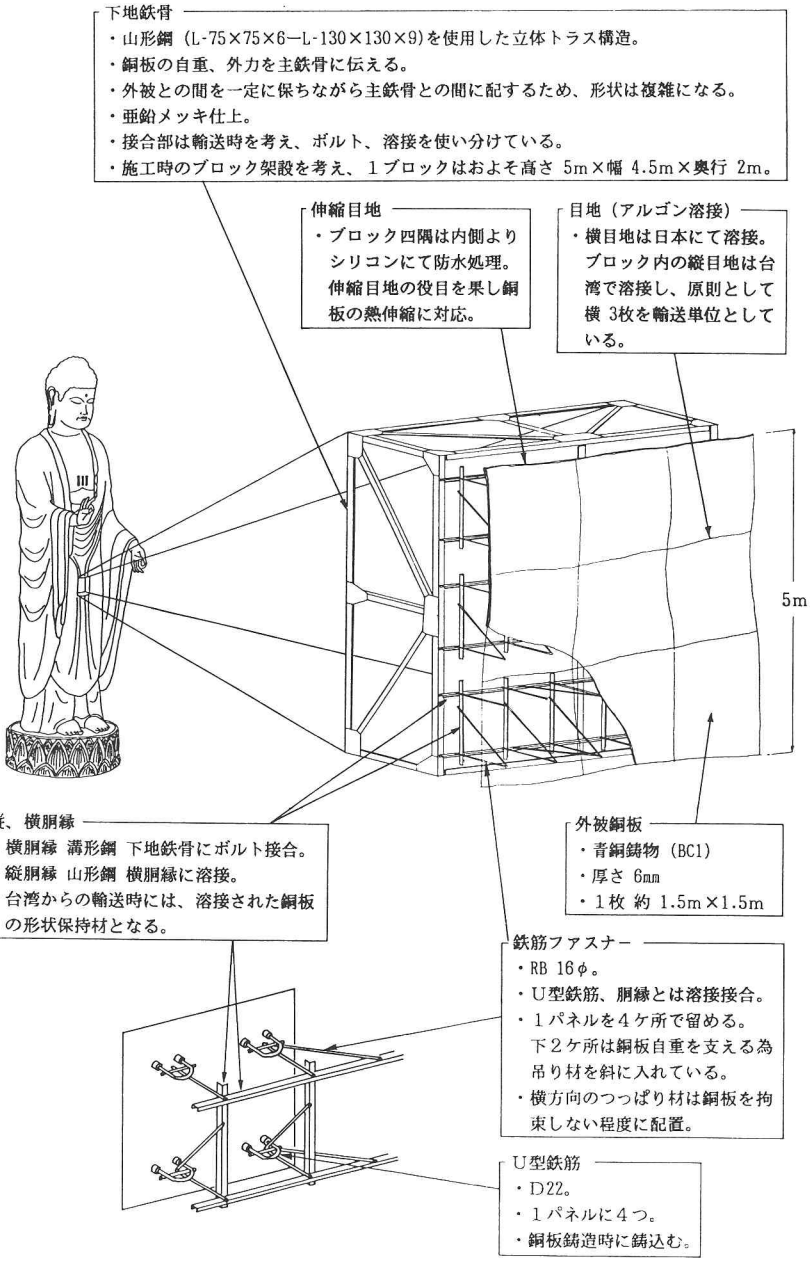
70.0m 平面図

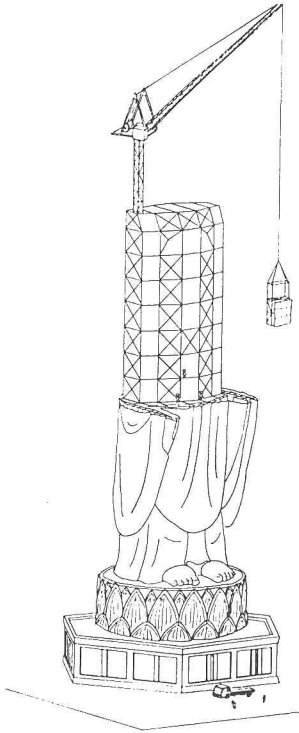
・構造の特徴として、まず基本となるシンプルな架構である本体鉄骨を軸とし、そのまわりに比較的細かな部材で構成された”下地鉄骨”と称する構造体を配し、その表面に薄い外被銅板を取付け、仏像の形を表現している。

・下地鉄骨および外被銅板は台湾で製作され、一度台湾にて仮組を行っている。このことにより日本での作業が簡略化され、工程管理、経済性の面でプラスとなっている。

・本体鉄骨と下地鉄骨の接合部には、取付け位置の修正ができるようファスナーを設置し、種々の誤差を吸収できる構造としている。




下地鉄骨
・山形鋼（L-75×75×6—L-130×130×9)を使用した立体トラス構造。
・銅板の自重、外力を主鉄骨に伝える。
・外被との間を一定に保ちながら主鉄骨との間に配するため、形状は複雑になる。
・亜鉛メッキ仕上。
・接合部は輸送時を考え、ボルト、溶接を使い分けている。
・施工時のブロック架設を考え、１ブロックはおよそ高さ 5m×幅 4.5m×奥行 2m。
伸縮目地
・ブロック四隅は内側よりシリコンにて防水処理。伸縮目地の役目を果し銅板の熱伸縮に対応。
目地（アルゴン溶接）
・横目地は日本にて溶接。ブロック内の縦目地は台湾で溶接し、原則として横 3枚を輸送単位としている。
5m
縦、横胴縁
・横胴縁 溝形鋼 下地鉄骨にボルト接合。
・縦胴縁 山形鋼 横胴縁に溶接。
・台湾からの輸送時には、溶接された銅板の形状保持材となる。
外被銅板
・青銅鋳物（BC1）
・厚さ 6㎜
・１枚 約 1.5m×1.5m
鉄筋ファスナー
・RB 16φ。
・U型鉄筋、胴縁とは溶接接合。
・１パネルを４ケ所で留める。下２ケ所は銅板自重を支える為吊り材を斜に入れている。
・横方向のつっぱり材は銅板を拘束しない程度に配置。
U型鉄筋
・D22。
・１パネルに４つ。
・銅板鋳造時に鋳込む。



4．施工概要

”カーテンウォル工法”の採用

本物件は仏像の形をした超高層建築物であり、これを総足場を架けて施工することは安全性、作業性から見てもマイナス要素が大きい。そこで外被銅板＋下地鉄骨をカーテンウォールと見なし、一般高層建築で行われているカーテンウォール工法により施工を行えば、安全にしかも短い工期で完成させることが出来ると考えた。

カーテンウォール工法

①仏像を高さ５ｍ単位で 20分割する。

②各段ごとに地上で下地鉄骨を所定の位置に組立る。

③この下地鉄骨はブロック架設ができるよう、１段で 10―30ブロックに分割してある。

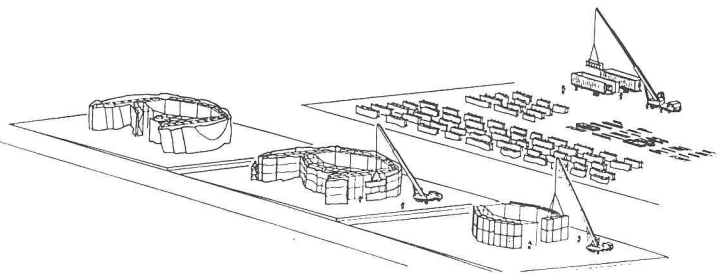
④下地鉄骨の周囲に外被銅板を取付ける。

⑤銅板どうしをアルゴン溶接にて接合する。

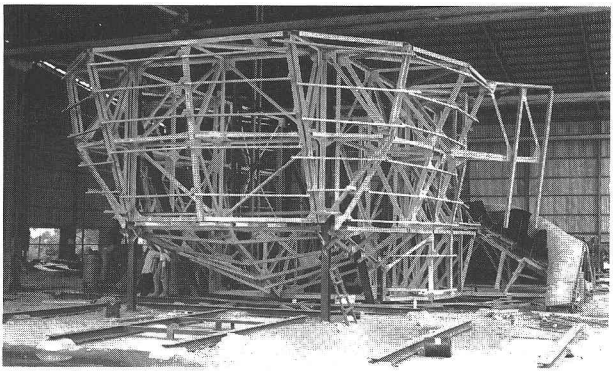
⑥５ｍ高さの上場、下場の銅板形状にくるいが無いか確認する。

⑦下地鉄骨と外被銅板が一体化されたブロックを吊り上げ、先行架設された本体鉄骨に取付ける。

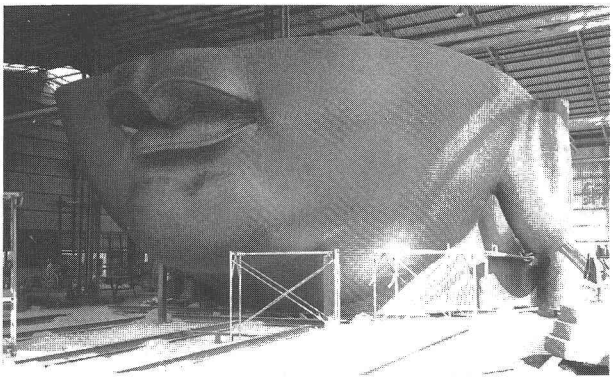
⑧取付けた各ブロック間の銅板目地を内側より防水処理をする。

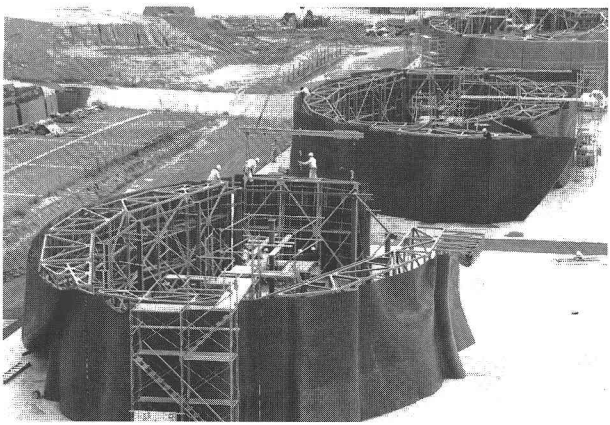


お顔下部トラス（台湾）

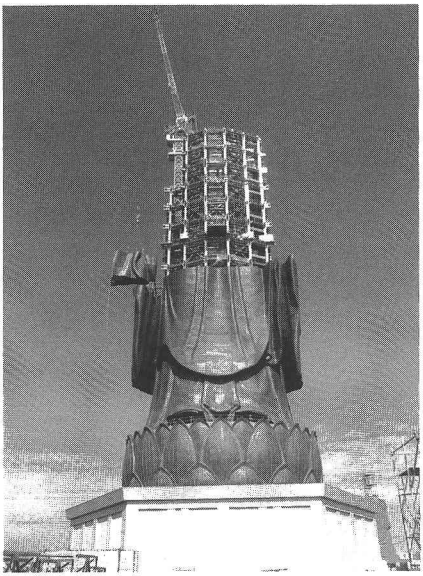


お顔外観（台湾）

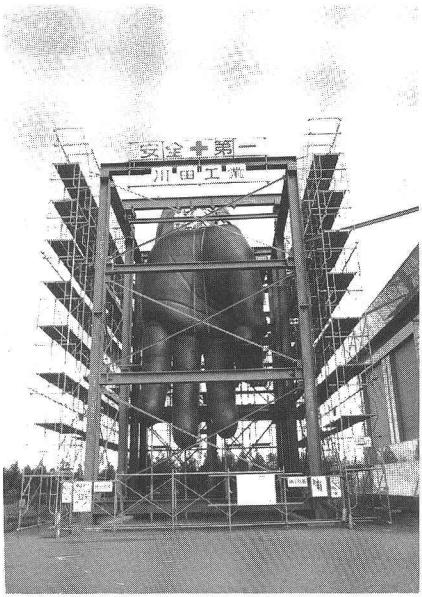




仮組立（日本）



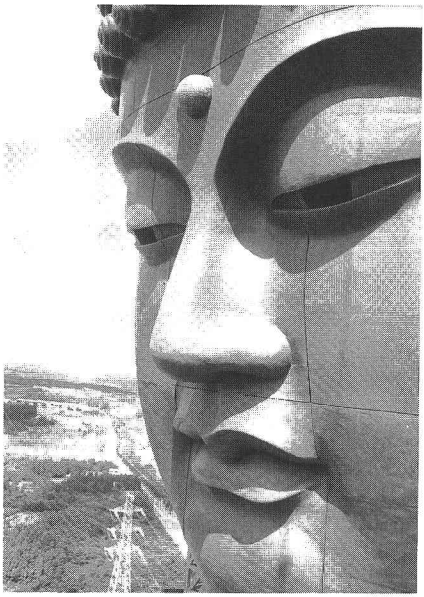
右袖架設



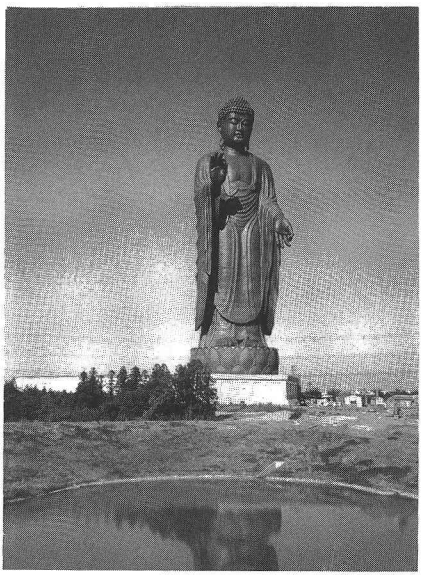
左手の組立

左手の架設

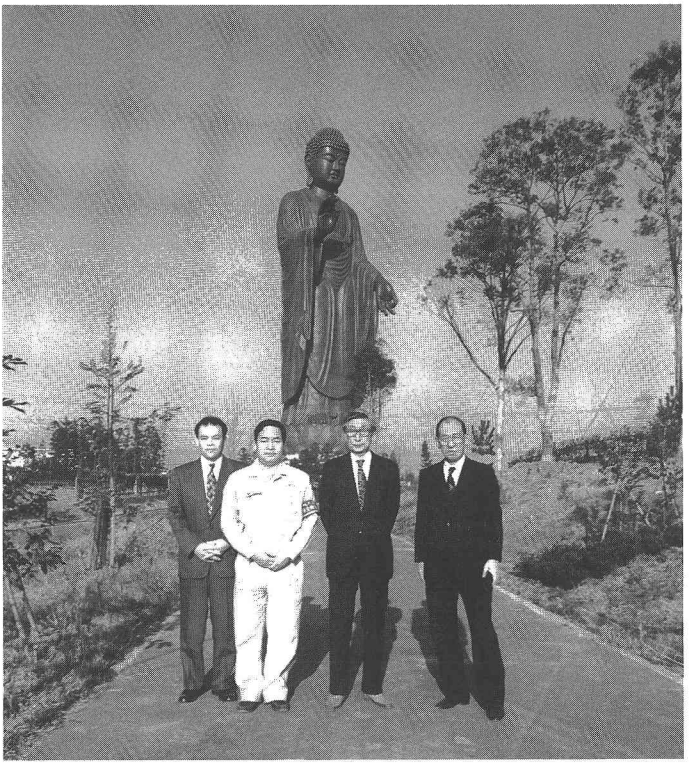
お顔の架設



お　顔



全　景

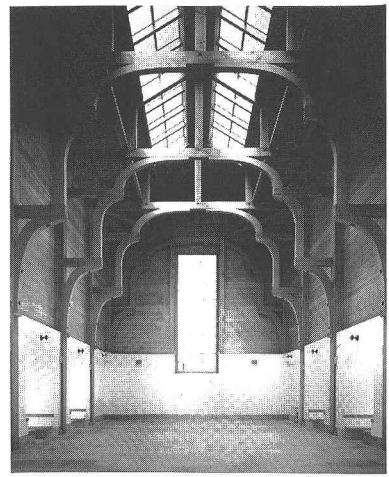


(92. 12. 16)

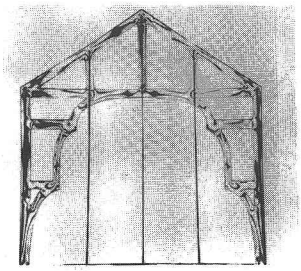
5. 木造雑話

——（「新建築」臨時増刊「木の空間」1992．12）——

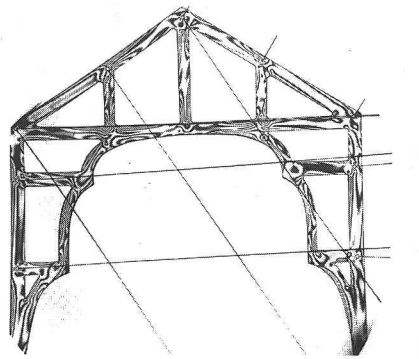
クリストファー・アレグザンダーらの設計による「盈進学園東野高等学校」(本誌8506) は，30年ぶりの木造との出合いであった．通常，小屋組はトラスで，三角形の集まりである．したがって軸力しか起きない．この小屋組は，四角形があり，曲がった材もあり，当然曲げが起きる．光弾性は軸力では縞が出ないが，曲げでは縞が出る．光弾性実験を行った．アレグザンダー，たいへん喜んで写真をアメリカに持ち帰った．



盈進学園東野高校多目的ホール



垂直荷重時光弾性

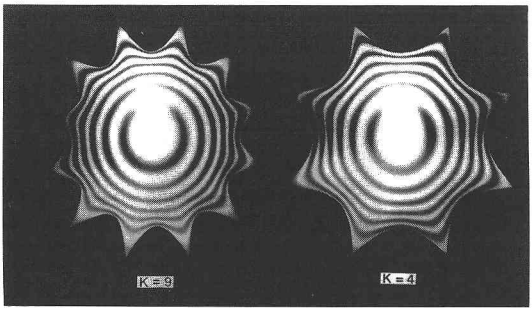


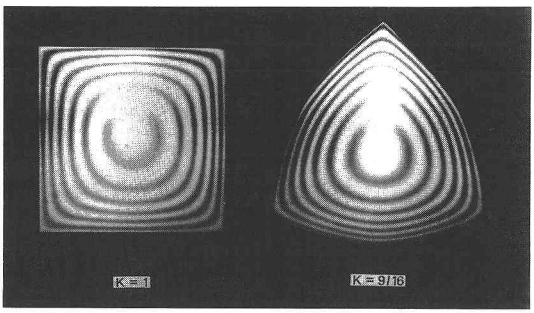
風圧時光弾性

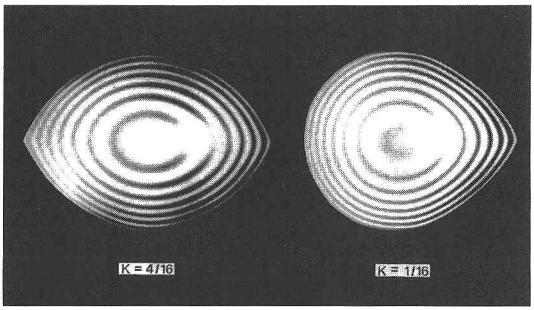
●

木製飛行機があった．航空の人たちが，木材を直交異方性として解析をさかんに行った．筆者も大学院のころ，勉強したものである．

久しぶりの木造で，古いノートを引張り出して，直交異方性の問題を考えた．「木柱の捩り」も，そのひとつである．等方性の棒の捩りは膜のたわみと相似である．年輪の方向と，これと直交方向とのせん断弾性係数の比をKとすると，Kの値によって形状を変えることにより，等方性に置き換えることができ，膜実験が可能になる写真は種々のKの値についての正方形断面棒の捩れの膜実験，モアレ写真である．縞は等高線である．膜の傾斜がせん断応力に相当する．



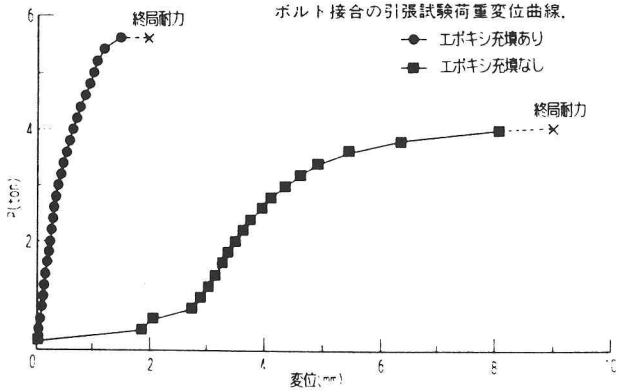




木柱の捩りの膜実験

●

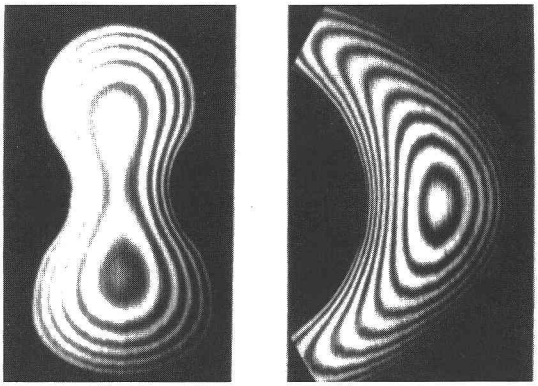
葉祥栄さんの一連の木造(「ミュージックアトリエ」「小国町交通センター」「小国町民体育館」など)は，間伐材を用いた立体トラスで，材は短く接合部の数が多い．通常ボルト孔はボルト径より数ミリ大きく開ける．これがガタとなる．これにより，全体のトラスの変形は大きくなり，また数材集まった接合部では力の分担が不明となる．これに対し，ボルト周辺にエポキシ充填した．実験すると，充填したものはガタがなく，耐力も強いのである．



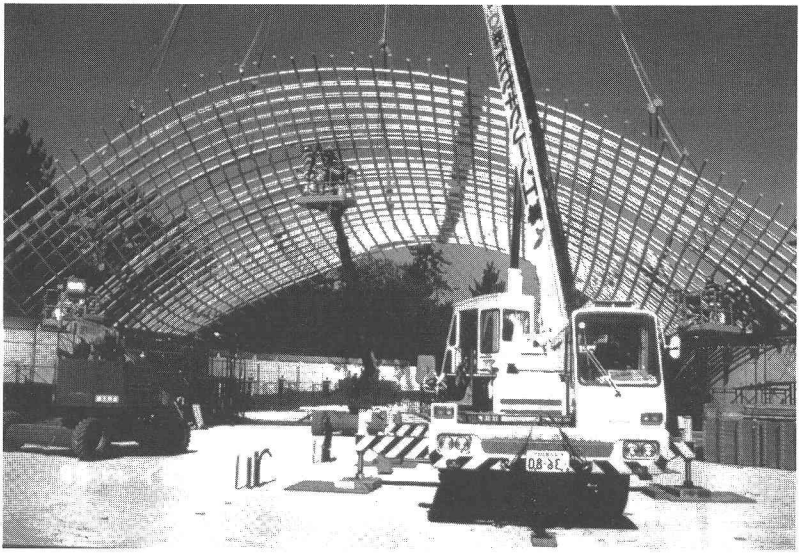
●

膜に空気圧を加えてできるシェルは，一様な引張りしか起きていない．このシェルに上から等分布の垂直荷重が加わるときは，一様な圧縮しか生じない．いわゆる軸力シェルである．写真は「なら・シルクロード博：登大路会場」の木造シェルの形のための膜実験で，モアレで等高線を求めている．

軸力シェルの利点は，リブの方向はどちらを向いてもよいことである．したがって，リブの木材をどんどん延長していけばよい．



奈良シルクロード博膜実験



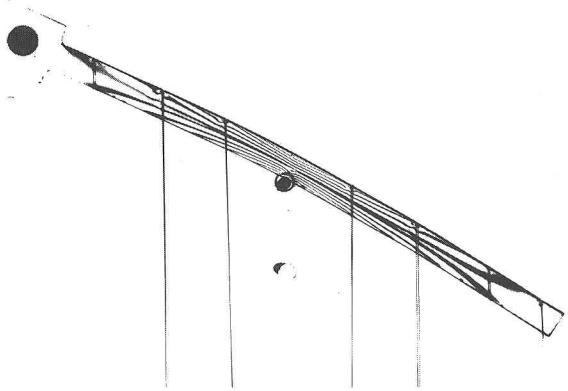
工事中

完　成

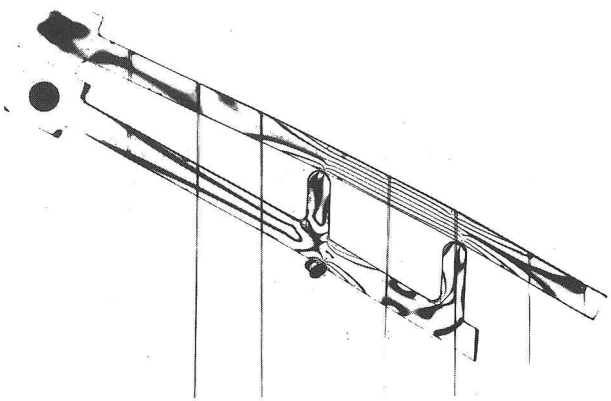
奈良シルクロード博の木造シェル

●

年をとると昔のものに興味を覚える.「唐招提寺金堂」の軒先では，桔木によって垂木の応力を減じ,深い軒先としてゝる.「法隆寺東院伝法堂」の小屋組は，梁の曲げを減らすよう工夫されている.

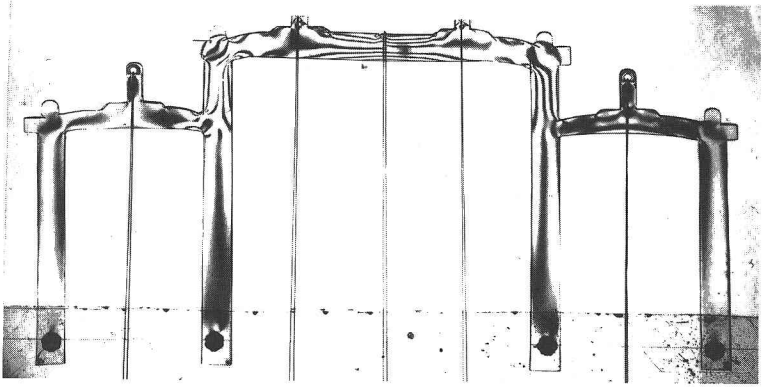


桔木のない場合の垂木の応力

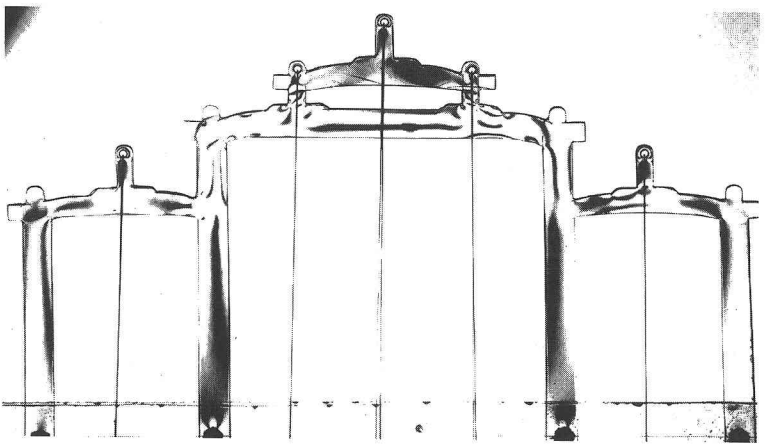


桔木による垂木の応力の減少
（荷重を上の場合の倍加えているが，縞数は約半分である）

唐招提寺金堂の軒先の光弾性



小屋組のない場合の梁の曲げ



小屋組により梁の曲げの減少（荷重は上の場合と同じである）

法隆寺東院伝法堂の小屋組の光弾性

6. コンクリートスラブ雑話

――（コンクリート工学 1993 年 6 月号）――

もう 30 年にもなるだろうか，その建物は軽量鉄骨造 2 階建て，床が現場打ちコンクリートスラブであった。「生コンクリート業者が間違って，設計より弱いコンクリートを持ってきて，それを打ってしまった。その業者は，もう一度持ってくるから，打ったスラブをこわしてくれと。スラブをこわすと，アンカーの鉄筋があるから軽量鉄骨の梁をいためてしまう，どうしようか」と現場主任から相談を受けた。

計算してみると，スラブのコンクリート部分に起こる応力は小さい。施主に立ち合ってもらって載荷試験を行った。

設計荷重に十分安全であり，たわみも正常であった。そのまま使うことになった。

この建物，山手線から見える。今も健在である。

一般に，スラブ厚を大にすると，鉄筋が減る。鉄筋を多くするとスラブ厚は小さくできる。どち

写真-1　浅川アパート夜景

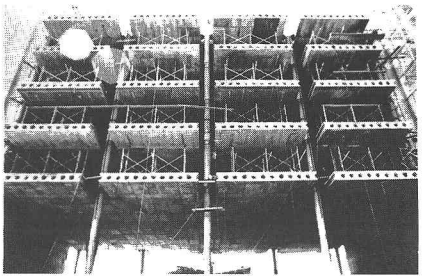


写真-2　佐倉市庁舎工事中

写真-3　佐倉市庁舎竣工後

らが経済的かというと後者である。普通の強度のコンクリートでも，最も経済的なスラブ厚というのは大変小さくなり，剛性が小さく，ぶわぶわして歩けない。それで，スラブ厚の最小規定が設けられているのである。

スラブの故障で一番多いのはたわみである。たいていは端の上端筋が下がって，ここに亀裂が入っている。固定で設計したのがピンになったわけで，たわみは数倍となる。

床版の荷重試験をすると，まず端に亀裂が入り，次に中央に入る。そうすると，それらを避けた部分にコンクリートのアーチができて，このアーチで抵抗する。それは設計荷重の数倍の強度である。さらに載荷すると，下ぞりの吊り材の形になり，鉄筋でぶら下がる。こうなるともう大変強くて落ちないのである。

たいていの倉庫のスラブは，大きくたわんでいる。設計荷重よりずっと大きな荷重をかけたからである。倉庫業者は，経験でスラブの落ちないことを知っているのである。スラブの落ちるのは工事中であって，でき上がったスラブが落ちた例はない。

「中空スラブ」を始めたのも，もう30年以上前のことであるが，今なお，よく使われている。現場打ちコンクリートスラブの中に中空管を埋め込んで自重を軽くしたものである。コンクリート断面はＩ形梁の連続となり，曲げに有利である。その後，工場生産の中空スラブが造られるようになったが，道路事情の悪いわが国では，スパンの大きなものは運べない。現場打ちが長く残った理由である。通常，8～20 m のスパンに用いられている。

中空スラブの厚さは，通常かなり大きく30 cm 以上である。壁厚も厚くすると，床が梁，壁が柱の平たいラーメンを構成することができて，地震時に抵抗できる。「浅川アパート」（写真-1）は2階建て，スパン8 m，床，壁ともに30 cm，床は中空スラブである。長手方向に壁がないので，開口は床から床，壁から壁までである。

スラブ厚の大きいことを利用して，リフトスラブに応用したのが「佐倉市庁舎」（写真-2，3）である。中空スラブを受ける梁をＨ鋼として，その成をスラブ厚以下とすると，梁をスラブに埋め込むことができる。スラブの下面はフラットになるから重ね打ちができる。両端のコアをスライディングフォーム工法で作り，5枚のスラブは地上で重ね打ちし，スラブを1枚ずつジャッキで所定の位置まで吊り上げた。スライディングフォームとリフトスラブで，大変工期が短縮された。

赤坂の皇太子様のお住まいが中空スラブだということである。大変光栄に思っている。

（まつい・げんご／早稲田大学名誉教授）

7. 構造を見せる

——（「建築雑誌」1993．6）——

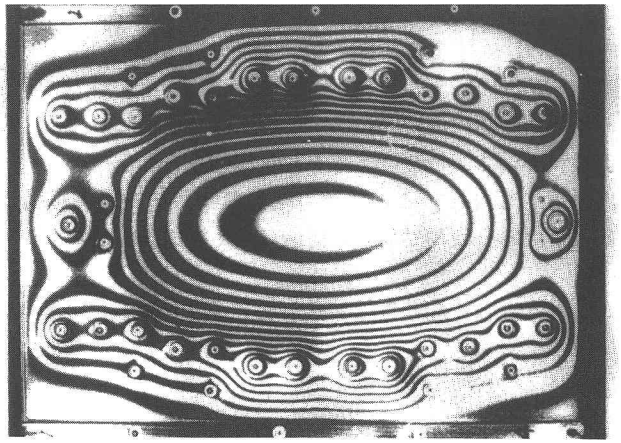
《私の構造設計論》

構造をみせる

松井源吾
早稲田大学名誉教授

デザイナーとの交渉には，目にみえるものが効果的であり，光弾性やモアレは便利である。

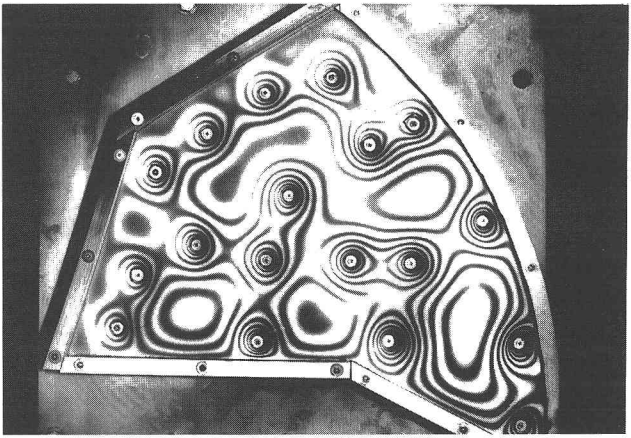
ここに，膜のたわみをモアレの等高線で示したもの2例をあげる。



「太閤山ランドふるさとパレス」（設計：葉祥栄，構造：草場基成）の屋根は，鉄骨の立体トラスである。写真は，その膜実験によるモアレ縞である。すなわち，支配面積に応じて

柱の高さをきめ，薄いゴム膜を張り，空気圧を上から加えた時の等高線である。柱の外側は片持ちなので，その先端は平らになるようにしている（剪断力ゼロの条件）。トラスの上面をこの形とすると，一様引張りとなり，下面をこの形の上下逆の形とすると，一様圧縮となる。

この立体トラス板は，等強板である。



「アミューズメントコンプレックス〈H〉」（設計：伊東豊雄，構造：ORS）は柱をランダムに立てたフラットスラブである。

板の両方向の曲げの和は，膜のたわみと相似である。膜実験によって，その等高線から曲げの大きさを知ることが出来る。写真は，この建物の床の膜実験のモアレ縞である。平面的な使用目的と，縞から，柱の位置を決めた。

写真は富岡佐和子さんの修士論文からである。

8.　叔父死去

遺　墨

故　山本修之助殿略歴

大正１１年　８月	新潟県立佐渡中学校を第４学年で病気退学。
大正１２年　５月	純芸術社結成、雑誌「純芸術」刊行。佐渡の文化運動のスタートをきる。
昭和　５年　８月	「佐渡の民謡」刊行。
昭和　７年　７月	「佐渡郷土文学選」刊行。
昭和　９年　７月	抒情小曲集「海浜秘唱」刊行。
昭和１４年　３月	読売新聞紙上で室生犀星より、「梅白しゆったりと鶴あゆみゐる」が推賞され、俳句の道を志す。
昭和２０年　６月	水原秋桜子に師事し、句誌「馬酔木」同人となる。
昭和２１年　３月	文化運動に「民衆の詩」として俳句をとりあげ、句誌「はまなす」主宰。
昭和２３年　５月	真野村立真野中学校にて教鞭をとる。
昭和２５年　１月	真野村立真野中学校校歌作詞。同年制定される。
昭和２６年　３月	真野村立真野中学校退職。
昭和２７年１１月	総理府事務官に採用され、宮内庁書陵部順徳天皇御火葬塚に勤務。同38年陵墓守長となる。
昭和２８年１０月	佐渡史学会発足と同時に会長となる。 佐渡博物館の設立東奔西走する。
昭和２９年　２月	句集「春雪」刊行。
昭和２９年　３月	佐渡俳壇の流派をこえた「佐渡俳句作家連盟」結成会長となる。
昭和３１年　９月	佐渡博物館完成。以来、理事、民族部長を務める。

昭和４６年　３月	宮内庁書陵部辞職。同年４月以来陵墓守部非常勤職員として、御陵の護持に努める。
昭和４７年　６月	「佐渡の百年」刊行。
昭和４８年１０月	「佐渡の郷土玩具」刊行。
昭和５０年　７月	「相川音頭全集」刊行。
昭和５０年　９月	東京作家クラブ（会長　山岡荘八）より「文化人間賞」受賞。
昭和５０年１１月	新潟日報社より「新潟日報文化賞」受賞。
昭和５１年　３月	「佐渡の順徳院と日蓮」刊行。
昭和５１年　７月	歴史と文学を中心にした総合雑誌「佐渡郷土文化」創刊（平成５年２月現在７１号刊行）。
昭和５１年　８月	「佐渡の人形芝居」刊行。
昭和５４年１０月	新潟県知事より「教育文化功労者」として表彰される。
昭和５８年　４月	勲六等単光旭日章受章。
昭和６０年　３月	真野町名誉町民に推戴される。
昭和６３年１０月	「佐渡の貉の話」刊行。
平成元年～　２年	真野公園「文学散歩道・文学碑」建立にあたり所蔵の色紙短冊から１４点選定。建立に尽力。
平成　３年１２月	「佐渡の書」刊行。
平成　５年 １月２６日	宮内庁より木杯を賜与される。

遺作

山本修之助

病みてなほ九十翁の初湯かな

美を恋ひて九十年や寒夕焼

寒濤や島に育ちて九十年

寒風呂やわが肋骨の幾本ぞ

寒の雨言葉は出でず握手ばかり

恋猫の来る夜は月のありにけり

大目玉大口寒のめばるかな

病床に小鳥の声や春を聴く

苦も楽も九十年の寒仏

肩にすこし雪を残して別れしよ

堀口星眠主宰「橡」平成５年３月号

お通夜　(92. 1. 27)

山本修之助翁を悼む

司馬遼太郎

波の上の佐渡のことを、本土の岬に立って想うとき、だれもが詩人になります。しかし、佐渡にいれば佐渡もまた浮世にちがいありません。日常のくるしみ、世の常の損得、些末な軋轢、佐渡だけが天国であろうはずもないのです。

が、山本修之助翁にあっては、佐渡に居つつ、佐渡が詩の国であると感じつづけて来られました。稀有なことでありますまいか。

修之助翁は、終生佐渡にあって、はるかな古代を想い、中世の佐渡の雅びを想い、御陵の松籟をきいては本土の争乱を悲しみ、近世、蝦夷地と上方をむすぶ経済と文化の流れにおどろき、さらには暖流に洗われる佐渡の崖の上の椿の花の盛りに風情を感ずるなど、その詩情はたえずさざめいて倦むことがありませんでした。さらにはその佐渡のよろこびを、佐渡に住まぬ本土のひとびとにも頒ちあたえてくださいました。小生もまた、その詩心と学徳のおこぼれを受けたひとりであります。

思いめぐらせば、修之助翁こそ、佐渡の国津魂の化身であられたかと、あらためて仰ぐ思いがいたします。

御親族の御悲しみはともあれ、すでに国津魂であられる以上は、地に在ると天にいますのちがいはすこしもなく、ただただ大いなる御心を足摺りして誄び奉るのみであります。

訃報に接し、驚きつつ　　平成五年二月六日

（真野町町民葬）

名誉町民故山本修之助殿町民葬
'93 2 19

名誉町民故山本修之助殿町民葬
しめやかに行われる

二月十八日、ふるさと会館において、一月二十五日に八十九歳で亡くなられた、真野町名誉町民故山本修之助さんの町民葬がしめやかに行われました。

山本さんは、大正十二年に、純芸術社を興こし、文学活動を展開。後に、水原秋桜子に師事し、俳句の道にすすみました。また、民俗学を志し柳田国男に師事、数多くの民俗学研究書を発行し「佐渡叢書」の復刻、「佐渡の郷土文化」等を著し、そのご功績は高く評価されています。東京作家クラブから文化人間賞、新潟日報文化賞、文化功労賞として新潟県知事の表彰も受賞されました。

昭和二十七年から二十年間、宮内庁書陵部陵墓守長として、真野御陵の護持に献身的なご尽力をされています。

町民葬には、町内外から約二百八十名の方々が参列されました。吉田町長の式辞に続き、来賓の方々や友人が白い菊の花で飾られた遺影に、お別れの言葉を述べられました。続いて親交のあった、作家司馬遼太郎氏と評論家草柳大蔵氏からの追悼文が朗読され、故人の業績の人柄をしのびました。また山本さん作詞の真野中学校校歌を十七人の生徒が斉唱し、知人の方々約二十名が俳句、短歌をささげました。最後に参列者全員で白菊を献花し、故人をしのびました。

ここに、生前のご功績をたたえ、謹んでご冥福をお祈りいたします。

ご遺族から百万円のご寄付
～教育・文化の振興に～

故山本修之助さんのご遺族から、金百万円の寄付を頂きました。

町では、ご遺族のご意向に沿い、教育・文化振興資金として、有効に活用させていただきます。

心から感謝申し上げます。

9. 学会賞受賞

◎ 建築構造に関する研究・設計・技術指導の総合的業績

終身正会員　松井源吾君

構造工学の研究は実際の建物の設計と深く関連をもち新しい空間の創造に寄与するときその輝きを増す。同君は永年の間研究と構造計画・構造設計との有機的総合化を一貫して指向し，数々の優れた建築作品群とそれらを理論的に支える多くの先駆的研究論文・著作を世に発表してきた。建築構造界においてそのリーダーシップは多大な感銘を与え続けてきた。

研究の手法は，二次元弾性理論解析と解析解が得られにくい複雑な構造を対象とした光弾性実験，あるいはモアレ縞膜実験の適用が中心である。実験と理論の整合性を検証しつつこれらの手法を駆使して，構造物の計画・設計の方法の確立を行ったことは全く独創的で建築界に新風を吹き込むものであった。光弾性実験の代表例としては，地震時のラーメン柱梁接合部，有孔梁，開口壁などの応力集中問題の解明があげられるが，この方面の研究のパイオニアであり第一人者ということができる。膜実験法は膜のたわみと力の流れの相似性に基づいて提案されている手法で，モアレ縞で視覚的に力の流れを把握できる。平面板における曲線梁の配置決定などにこの方法を用いている。これは基本的には応力の大きい流れに沿って大梁をかけることを意味し，梁の配置としてはすこぶる合理的である。この手法を積極的に押し進め，建築構造物に適用した意義は極めて大きい。

これらの研究に関連して行った数多くの構造物の計画・設計の中で代表的なものを具体的にとりあげると，その第一は中空スラブに関するものである。ロングスパンスラブを考えるときその軽量化は必然である。約３０年前に研究・開発に着手し，１９６３年にはいち早く館林市庁舎に適用し，その後も数多くの作品例を手掛け，そして現在は一般に広く普及されるに至った。この間，前記光弾性を含む構造実験と解析に関する多くの論文発表と設計法の

提案を行い，著書の「中空スラブ構造」，「中空スラブの設計」等は普及の原動力となった。

その第二は流線による曲線梁の提案で，設計としては１９７８年のホテルニューアカオ・メインダイニング“錦”などの作品群がある。それらに対応して曲線梁について数多くの理論的研究を発表し，その有効性を実証している。また著書の「見える力学」，「Ｆrings」は国際的にも高く評価されている。

第三は木造に関するもので特に大スパントラス構造の作品としては小国町交通センター（1986年）をはじめとして数例がある。トラス接合部の補強法を提案し，また捩りを受ける柱を含めたこれら直交異方性材の弾性，捩れ問題等に真正面から取り組みこれを解明し，実施設計に結びつけている。木造建築について在来工法に加えて，新しい構造法にも工学的知見を加え積極的に評価することによって，この種の構造の発展に大いに寄与している。

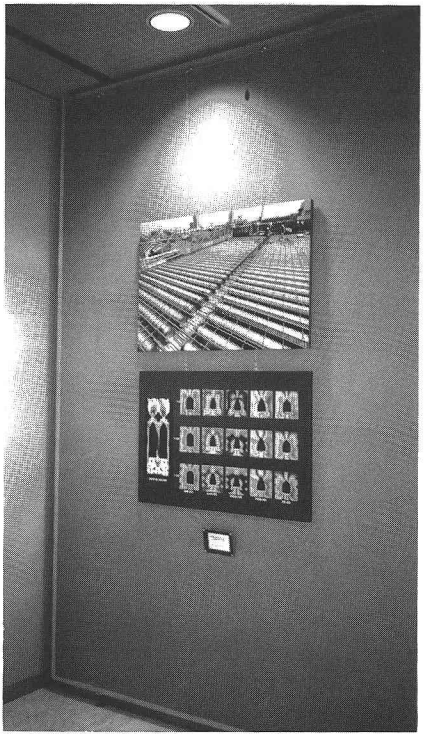
以上の多くは大学の教育・指導を通じて行われ，多くの若き研究者を世に送り，社会に貢献すると同時に数多くの論文，著作，あるいは作品集の発表はこの種の建築構造の普及啓蒙に非常に貢献している。

よって，ここに日本建築学会賞を贈るものである。

63. 5. 28

1993年度日本建築学会通常総会
大賞・学会賞・文化賞贈呈式
懇　親　会

学会のパーティー



受賞を祝う会（93. 6. 18　都ホテル）

あいさつ　　松　井

私は，25年前に作品で学会賞をうけているのですが――

稲門建築会の名簿のはじめに，早稲田の建築科の歴史が載っています。

昭和43年の所に，早稲田大学理工学部校舎，日本建築学会賞，安東勝男ほか，とあります。

私はこの「ほか」です。

学会は，連名の受賞の時，賞牌は一つしかくれません。安東君は，私に見せもしないで持ち帰りました。

彼も，私のこと「ほか」と考えていたのでしょう。

私が構造を担当した建物で，吉阪先生以来，6人のデザイナーの方々が，学会賞をうけておられます。

先般，吹上新御所竣工，内井さんは銀盃をいただきましたが，私は木盃でした。

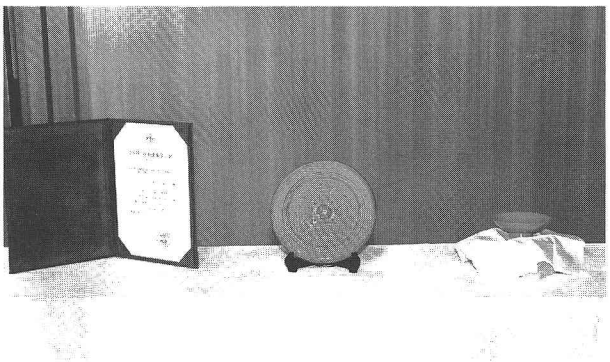
ロバートソン氏によれば，アメリカでも，竣工式に構造屋はよばれないそうです。

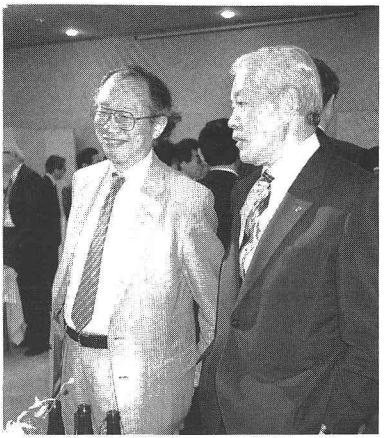
構造屋というのは損だなと思っています。

そんなことから，「松井賞」を考えた次第です。

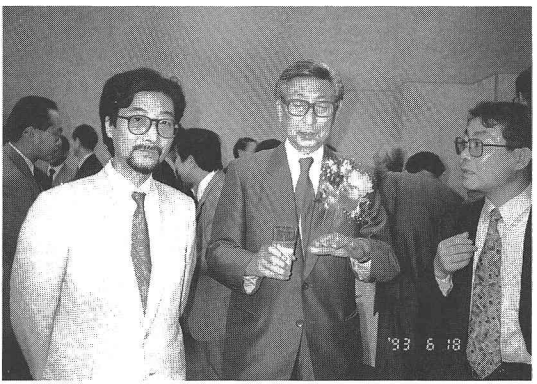
今回の受賞，全く思いがけないことで，驚き，かつ喜んでおります。

推薦していただいた方々に深く感謝いたします。





'93 6 18


'93 6 18

'93 6 18

'93 6 18

'93 6 18

'93 6 18

'93 6 18

'93 6 18

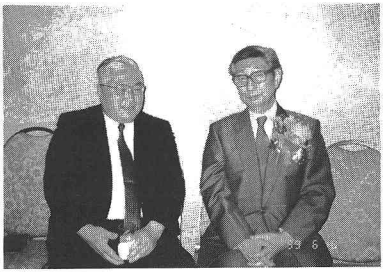
'93 6 18

'93 6 18

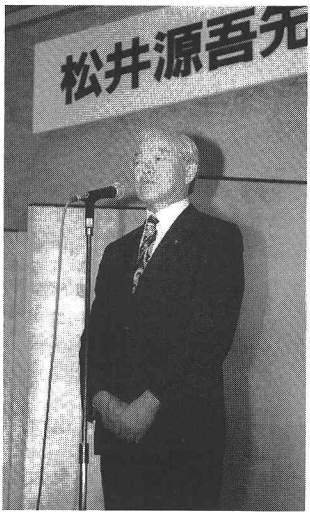
'93 6 18

'93 6 18

'93 6 18



松井源吾先生の受賞を祝う会



二次会（わが家）

10.　25 年前の学会賞受賞

今回の受賞で，往時を偲び，当時の写真を載せる。

学会長だった坪井先生，お祝いの会に来ていただいた恩師，内藤，木村，今井，吉阪，蛭田の諸先生，綾井，秀島の両先輩，それから安東君，皆，故人となった。

安東君があいさつで，私も松井も川島研究室である，この建物は川島研究室が建てたんだ，といって泣いたのである。

あれから，もう25年か。

皆，よい人達だった。

坪井善勝先生

1968. 5. 28

学会でのパーティー

綾井九州彦氏

蛭田捨太郎先生

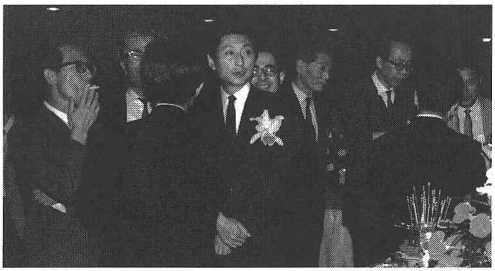
お祝いのパーティー
(6. 15　東京パレスホテル)

総長
大浜信泉

先生
木村幸一郎

先生
吉阪隆正

安東勝男君



秀島乾氏

同級生と

恩師と

先生
蛭田捨太郎

先生
内藤多仲

先生
今井兼次

先生
木村幸一郎

11. 住吉さん建築文化賞受賞

◎ 日本の伝統的木造建築の継手・仕口模型の製作を通じての建築教育および建築界への貢献

住 吉 寅 七 殿

日本伝統の木構造に，継手と仕口がある。

木組みされた後の美しさも重要な要素となっている継手と仕口は，くぎ等の接合具のなかった時代から，三重塔・五重塔などの日本の代表的木造建築に採用されてきた方法である。

木材を継ぎ足して長さを長くのばす接合を継手，木材相互が直交あるいは斜交する接合を仕口という。

住吉寅七氏は，社寺建築を中心に，木造の設計・施工に従事してきた棟梁であるが，継手と仕口にこめられた先人の知恵と工夫を現代に伝える目的で，建築教育の資料として，継手と仕口の模型を製作している。

住吉氏は，この模型の写真と図面を中心とした著書「木造の継手と仕口」（鹿島出版会）を松井源吾氏の勧めと協力により，１９８９年に出版している。伝統の接合技術を紹介しているこの著書に対する反響は大きく，多くの読者の支持を受け，現在も版を重ねている。さらに，１９９１年には，この英語版も出版し，日本の伝統木造技術の海外への紹介にも貢献している。

住吉氏の模型は，写真を通してのみの貢献だけではない。

実物模型をじかに見て，より身近かに伝統の知恵と工夫に接してもらおうとの企画により，１９９２年１０月８日～２７日には東京ガス銀座ポケットパークにおいて，模型展示を中心とした「木造に学ぶ」が開催された。継手と仕口の，複雑で巧妙なディテールを考えだした長年の工夫に，そして見た目には実際の複雑さを見せない知恵に，この展示会を訪れた多くの建築学生・建築関係者は大きな感銘を受けている。

継手と仕口は，木材の性質をよく見分け，経年変化による収縮・そり・曲がり・ねじれなど

への対応を考え，力の流れを配慮したもので，永い年月にわたり改良に改良が加えられた実証的所産である。つまりは，日本建築が木を通して築き上げてきた大工技能の粋を表現したものであり，このような伝統を，模型製作を通じて，次世代に正確に伝えていくことは，建築界への貢献はもちろん，建築教育の観点からもまことに意義深いものと言えよう。

よって，ここに日本建築学会文化賞を贈るものである。

アレグザンダーよりのメッセージ　（中埜　博 訳）

住吉様　　5月27日，1993

私の旧友である住吉さん，日本建築学会の文化賞を受賞されたことをうかがいました。まるで，自分のことのように幸せです，おめでとうございます。つい先日，細井理事と，中埜の方から連絡が入りました。その受賞式パーティーで，ぜひ一言ということですのでこのメッセージを送らせていただきます。

私は，今でもよく思い出します。奈良の天理の住吉さんの自宅を訪問させていただいた時，ご自分で，お茶をたててだしてくれましたあの時を。私どもと一緒に仕事をした時の住吉さんの素晴らしい仕事ぶりもよく覚えています。棟梁にしか，許されない特権である住吉さんの長い小指の爪もよく覚えています。

奈良で，私に二つの美しい瓦を見せてくれましたね。その時私にはどちらの方が美しいか理解できませんでした！　つい最近住吉さんの言ったとおりだとやっとわかるようになりました。住吉さんあなたは，私にとって父のような存在です。

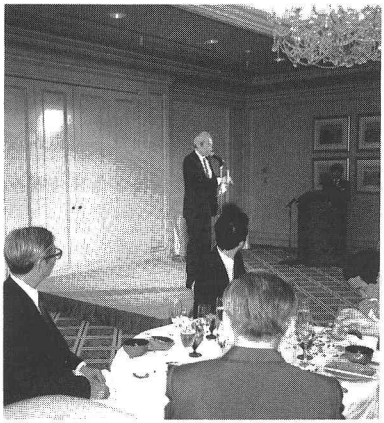
今日，あなたの祝賀パーティーに参加して，他の人と一緒にお祝いできなくて大変残念です。でもこれで，もっともっと多くの日本の人々が，住吉さんの，美しい「継手」を見て，学ぶことができるようになれば，すばらしいことです。

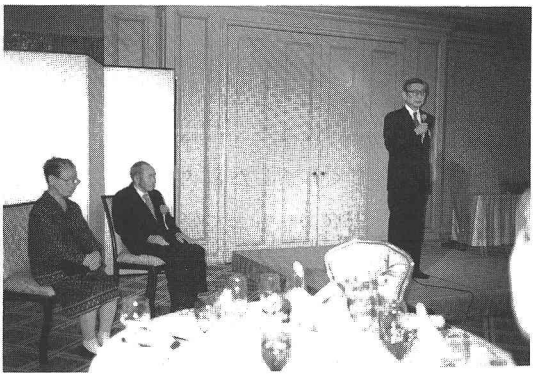
ぜひもう一度お茶をたててもらう機会があることを望んでいます。そのためにも，ぜひ，健康で長生きをして下さい。

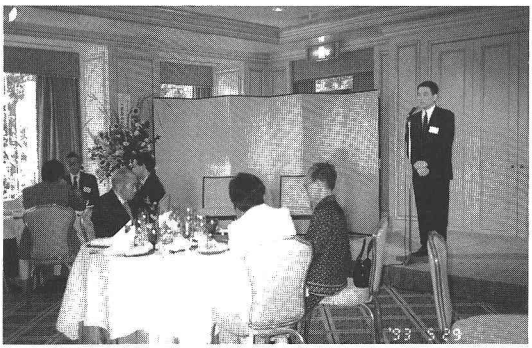
できましたら，一度お声だけでも聞かせてください。

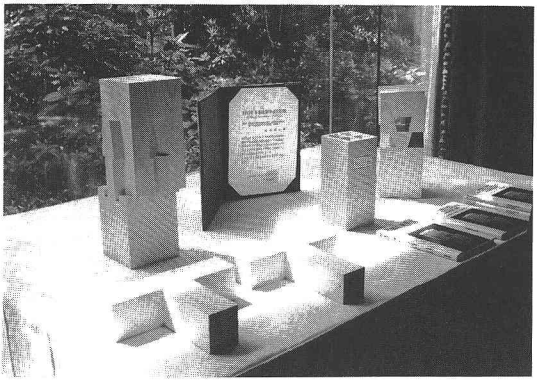
クリス――あなたの息子より――

住吉さん祝賀会
(93. 5. 29　フオアシーズンズホテル)



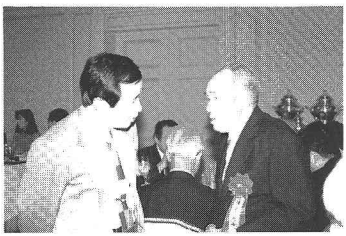






'93

'93 5 28



12. サルバドリー教授の受賞

1993 ACSA／AIA
トパーズ賞の栄冠

AIA の名誉会員で、長老的存在ではあるが革新的な、コロンビア大学のマリオ G. サルバドーリ教授が、優れた建築教育で、ACSA／AIA のトパーズ・メダルの最初の技術者として選ばれた。受賞は、サウスカロライナ州のチャールストンにおける、本年度の年次大会プログラムの一環として、3 月 15 日の ACSA 年次受賞バンケットで贈呈される。

サルバドリーの活躍の場は、彼が生まれたローマから、半世紀の間、工学と建築を教えたコロンビア大学、超高層を設計した世界の大都市に及んでいる。

サルバドーリ名誉教授の、“建築と工学、技術と人間性、実用性とその議論等の隔たりの橋渡し”が、AIA／ACSA の審査員によって認められた。

土木工学と数理物理の学位を持つ彼は、エンリコ・フェルミーから核物理学を学び、知らなかったのであるが、マンハッタン計画で彼の経歴の第一歩を踏み出した。1940 年に、顧問技術者として活動しながら、サルバドーリは、コロンビア大学で教鞭を執り、1960 年に建築学部の教授そして 1972 年に土木工学のジェームス・レンビック教授となった。コロンビア大学での地位は、1990 年の退職まで続いた。

1975年、サルバドーリは、もう一つ別の仕事を持った。即ち、イースト・ハーレムの児童の教育である。若い学生は、図や判り易い方法で説明されると、複雑な物理概念を把握する事が出来るという信念で、大学のカリキュラムを生徒向きに書き直した。12年後の1987年に、建築環境に関するサルバドーリ教育センター〔SECBE〕が、学校でのプログラムを通じて、彼の教育理念を完成するために設立された。学生達が住んでいる都市に関連づけて、数学や科学を提言している。サルバドーリは、サルバドーリ教育センターで教師の養成のため、ニューヨーク市立大学（CUNY）に大学院コースを設け教育している。

サルバドーリは、応用数学に関する5冊の本、建築構造に関する10冊の本、130編以上の論文を出している。彼はエミリ・デイケンズの詩のイタリア語訳や登山の本も出している。昨年、W.W. ノートンから、マッシーズ・レビーと共著で“何故建物は崩壊するか？”を出版し、好評を博している。

（望月 重 訳）

附　記

ACSA：Association of Collegiate Schools of Architecture
大学建築学部連合会

AIA：The American Institute of Architects
米国建築家協会

サルバドリー教授について　　松　井

武蔵工大望月重教授は，サルバドリー教授の著「建築の構造」の訳書を出版された（昭和43年，鹿島出版会）。この縁で，望月さんはコロンビア大学に客員教授として招聘された。

望月さん帰国後，サルバドリー教授を日本に呼びたいのだが，という話があ

った。

昭和46年秋，ブラジルへ行く途中，コロンビア大学を訪ね，日本での講義を依頼した。

昭和48年5月，サルバドリー夫妻来日，10日間滞在された。

教授は，武蔵工大，早稲田大学，建築学会で，わかりやすい構造の話をされて好評であった。

望月さんは，その後も次々とサルバドリー教授の本の訳書を出されている。

私は「建築構造計画入門」の英訳書に教授の序文をいただいた。

マリオ・サルバドリーはローマ大学で土木工学と数学で博士号をうけ、コロンビア大学の土木工学と建築の教授である。

職業技術家として、彼は次のような有名な構造の設計に関係してきた。マンハッタンのＣＢＳの鉄筋コンクリートスカイスクレーパー、エール大学の稀覯図書の図書館、ブリュッセルのランベル銀行、プエルト・リコ、サン・ジュアンのナイトクラブラ・コンカ、そしてアメリカ合衆国の最初のテント屋根構造の一つである　コネティカット州リッチフィルドのキャンプコロンビアのブルノ・フナロ　パビリオン。

国内でもまた海外でも、彼は権威ある教師、講演者、著者、著名な構造顧問、そして薄肉シェルの専門家と考えられている。

彼の協力者である、ロバート・ヘラー博士はコロンビア大学の土木工学の準教授である。

サルバドリー，ヘラー共著　望月 訳「建築の構造」（鹿島出版会）のカバーより

お祝いに，望月さんと共同で，花瓶（陶器）を贈った。

佐渡の若林善一氏（日本工芸会正会員）の作品である。若林氏の師匠，故渡辺国三氏は，私の父と親しかったということである。

サルバドリー教授から，花瓶の礼状が来た。

Mario Salvadori
2 Beekman Place
New York, NY 10022-8058

May 18, 1993

Dear Professor Matsui,

Upon returning to New York from our house in the country we found an enormous crate and, upon opening it, we were surprised and delighted to find a wonderful and invaluable Japanese pot, signed by its famous maker.

Carol and I have no words to thank you for this magnificent gift that will make us happy in our living room for as long as we live. We do not have this custom in our country and we think it is a wonderful custom.

We particularly appreciate that the beautiful pot is by a famous potter from your native town, which makes it even more precious to us.

I hope that you are in good health and continue to work actively as you have done all your life. I have retired from both Columbia University and my professional office and give all my time to the Salvadori Educational Center on the Built Environment, that I initiated 18 years ago. Our program is now all over the United States and keeps me busier then when I was working in engineering and architecture. It is hard work, but very satisfying and rewarding. Being with young people keeps this old man young.

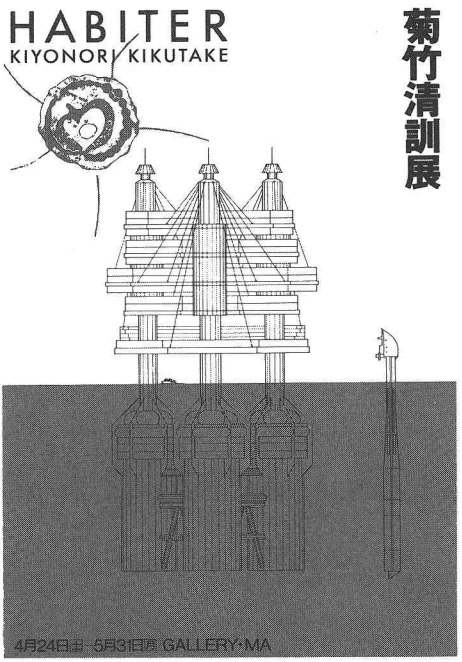
Again let me express our gratitude.

We wish you the very best for years to come.

Cordially yours

Mario Salvadori

13. 菊竹清訓展



謹啓　春暖の候 ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、GALLERY・MAでは、1993年第3回目の企画展といたしまして、このほど話題の「江戸東京博物館」の完成をむかえるなど、ご活躍中の建築家・菊竹清訓氏の作品展「HABITER」を開催いたします。
つきましては、作品展のオープニングを記念いたしまして、ささやかながら、菊竹氏を囲んでの懇親の席をご用意いたしますので、ご多用中とは存じますが、ぜひご来臨賜りますようご案内申し上げます。　敬具

1993年4月　GALLERY・MA

日時＝4月23日(金) P.M.6:30~P.M.8:30

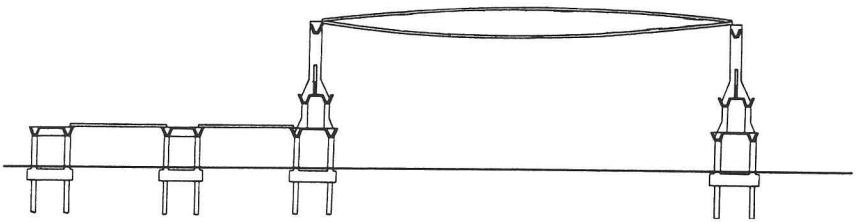
あいさつ

松　井

菊竹さんとのつき合いは，30 年以上になります。

菊竹さんは構造の天才，私の「先生」で，私は「生徒」です。先生は，いつも生徒に「宿題」を出します。

例えば，立花町体育館，スパン 30 m，レンズ型の屋根，三晃の折板，先生からの図面は，屋根と天井の線だけ，中は勝手に考えろ，これが宿題。



立花町体育館

これには，うまい答が出来ました。

こんな調子で，先生は次々と宿題を出し，私が答えを出しました。

今までのところ，まあまあの答えで，いい「生徒」だったと思っています。

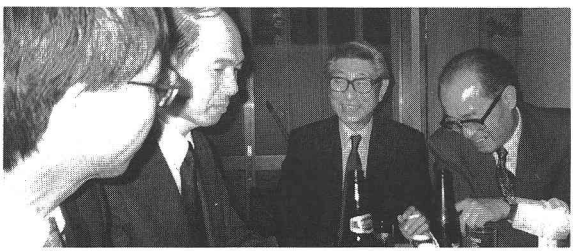
その答えから，何人かの博士が生まれました。

私も年をとりました。

これからも，私がボケないように，「宿題」を出しつづけて下さい。

なお，相沢さん司さんのお宅は，菊竹さんと私の設計です。

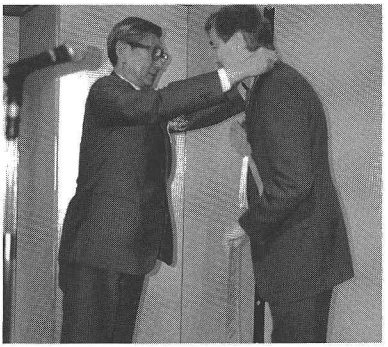
HABITER
KIYO RI KIKUTAK

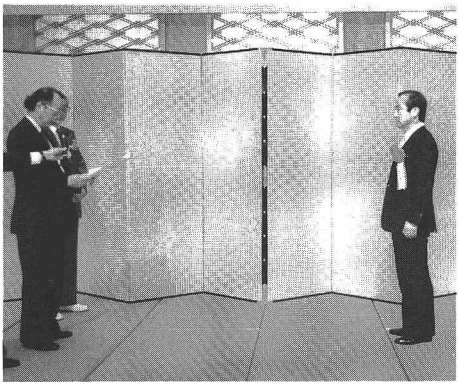


二次会（目黒　だるま）

14. 第３回松井賞授賞式

―― (93. 6. 4　ホテルオークラ) ――

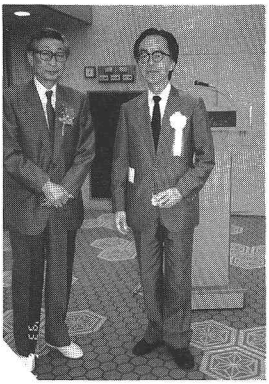


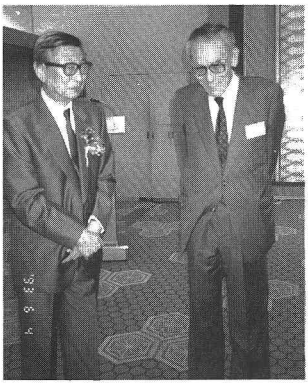


賞授賞披露パーティー

第3回松井源吉賞授賞披露パーティー

'93 8 4





二次会（わが家）

15. 駐日ハンガリー大使ラーツ博士

―― (93. 5. 1) ――

イシュトヴァーン・ラーツ氏は，ブダペスト工大卒業後，早稲田大学電気工学科に留学，博士になられた。

私がはじめて会ったのは，1988年8月のハンガリー旅行の時である。

当時ハンガリーに留学中の国士館大田中輝明教授と一緒に，ウィーンまで迎えに来てくれ，一緒に陸路ブダペストに入った。ハンガリー滞在の10日間，ナジ君と共に方々案内してくれた。「縞―その11」に田中君が「ハンガリー紀行」を書いているが，その中にラーツ博士が方々に出ている。

昨年夏，駐日大使に任命されて来日された。ブダペスト工大でナジ君の後輩であるから40歳位であろうか，若い大使である。

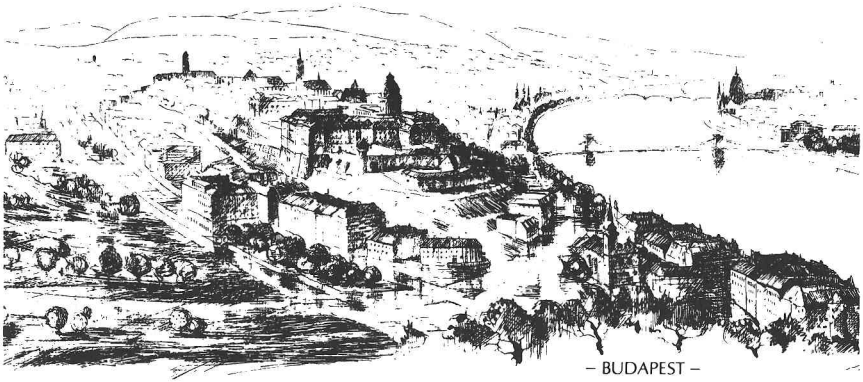
宮中に外国大使が招かれることがよくあるそうで，彼は日本語がうまいので，天皇陛下がよく話かけられるとご自慢である。日本語の出来る大使は少ないのだ。

先般，大使の妹さん夫妻が来日，妹さんの主人が建築家ということで，田中君，ナジ君等と一緒に大使館に招待された。慶応大学三田校舎のすぐそばである。

鯉のスープは，日本の鯉こくに似ていてうまかった。

大使は独身であるが，妹さん夫妻は6人の子福者である。建築家の主人の仕事は，国会議事堂の修理，30年がかりということである。そのドームが立派だったこと思いうかべている。

日本の議事堂，本当にみっともないな，といつも思っている。



Boldog új évet!

Happy New Year!

Bonne Nouvelle Année!

Glückliches Neues Jahr!

С Новым Годом!

¡Feliz Año Nuevo!

István Rácz

Ambassador

Republic of Hungary

日本ハンガリー友好関係のための御活躍を感謝至します。

イシュトヴァーン・ラーツ

賀状

田中邸での妹さん夫妻
の歓迎会
(93. 4. 7)

左より　ラーツ大使，妹さん，妹さんの主人，ナジ君のお父さん

大使の招待
(93. 4. 14　ハンガリー大使館)

93

93 4 14

Dear Professor Matsui,

Arriving home we think a lot of those marvelous days in Japan. We are certain we got the best program for learning the essencial of Japanese style of living and the Japanese architect within two weeks while we were having the best time of our life.
Many thanks for them once again

Kati and Balázs Andrássy

妹さん夫妻の礼状 Budapest 24. 04. 1993.

16. 難波君とミクラス教授よりの手紙

UNIVERSITY OF COLORADO

Department of Aerospace Engineering and
Center for Space Structures and Controls
Boulder, CO 80309

Haruyuki Namba, *Visiting Research Associate*
Campus Box 429
Office Phone: (303) 492 - 0689
Fax : (303) 492 - 4990

January 10, 1993

松井　源吾　先生
No. 5 - 10, Kamiohsaki 4-chome, Shinagawa-ku,
Tokyo 141, Japan

拝啓

その後、先生にはお変わりございませんでしょうか。こちらでは日中晴れていても鼻が凍るような厳しい寒さが過ぎ、近頃は晴れると春のような陽気です。今日はまた雪が降ってはいますが、そうした気象の変化がこの地の魅力です。

さて、先日頂戴した"Wood Joints in Classical Japanese Architecture" ですが、コロラド大学のある教授に、その反応を探るべく、見せてみました。宇宙構造工学の教授ですが、日頃、建築技術や形の科学に強い関心を寄せており、また、ＮＡＳＡで宇宙ステーション建造のためのトラスジョイントを開発した経歴を持っており、きっと日本の木造仕口にも興味を示すだろうと思った次第です。

当然のことながら、その教授はおおいに先生の著書に関心を寄せられ、その本、松井先生のサインがありませんでしたが、その教授に差し上げました。

そのミクラス教授から、既に手紙が先生宛に届いているかもしれません。

宇宙構造物では、ジョイントに２つの種類があります。ひとつは、宇宙空間で用意に施工できるいわばワンタッチジョイント。もうひとつは、始めロケット打ち上げ時に折り畳んでおいて宇宙空間に行ってから展開するために必要になる可動ヒンジジョイント。何れの場合にも、構造物の制御上からくる要求で、著しくガタの少ないシステムであることが要求されます。

前者のワンタッチ式ジョイントを取り扱った論文を添付しましたが、その中（２ページ目）でLaRC (NASA Langley Research Center) と添え書きされているのが、ミクラス教授のデザインです。ちなみに、Star*Bay と添え書きされているのが、清水が開発に投資したもの。

小生の今春帰国の話、だんだん濃厚になってきました。希望通り、そして計画どおりであるとはいえ、半面、残念ではあります。

末筆ながら先生のご健勝を祈念致します。

敬具

難波治之

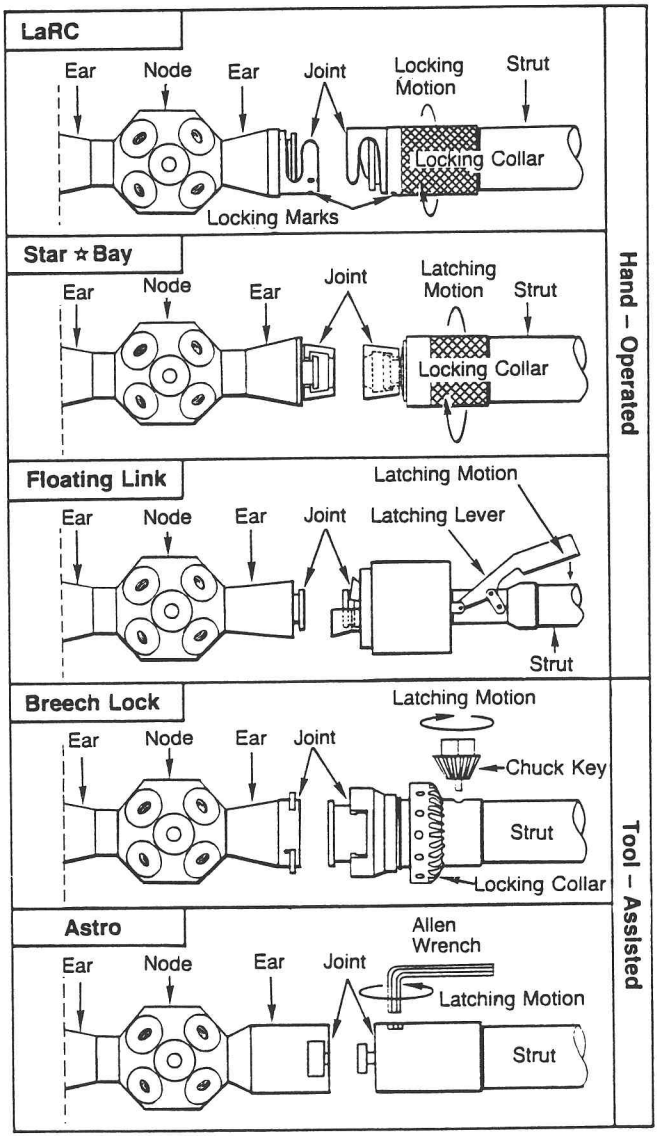


Figure 1. Truss Joint Test Specimens — Unlatched

University of Colorado at Boulder

Center for Space Structures and Controls

Engineering Center
Campus Box 429
Boulder, Colorado 80309-0429
(303) 492-6838

February 9, 1993

Dear Professor Matsui

Recently Haru Namba gave me a copy of your book "Wood Joints in Classical Japanese Architecture". First of all I thank you and Haru very much for the book. At this point in my career I am very interested in seeing that previous construction technology is passed on to future generations. Accordingly, I believe you have done a great service to the structures community with your book. I have worked on aerospace structures for 32 years and feel that a great deal of knowledge is about to be lost if books like yours are not written. However, as you well know, the amount of time and resources to accomplish such a compilation is significant. I commend you highly for taking the time and effort to pass on this technology to the next generation of designers. Your book is of great inspiration to me and I hope that I will take the time in the next few years to accomplish something similar for space structures.

Sincerely Yours

Martin

Martin M. Mikulas, Jr.
Professor, Aerospace Engineering Sciences

90

１９９３年２月９日

松井先生へ

先日、難波治之君から、先生の著書" Wood Joints in Classical Japanese Architecture "をいただきました。まずは、先生と難波君に本のお礼を申します。今のところ、私は伝統的な建築技術が次代に伝えられるのを見ることにたいへん関心があります。従って、私は先生の著書が構造界にたいへんな貢献をなしたと信じています。私は３２年間宇宙構造物を研究し続けてきましたが、先生が書かれたような本がなければ、非常に多くの知識が失われてしまおうとしていると感じています。しかし、先生はよく御存じのように、こうした編集を成し遂げるには相当な時間と手間がかかります。私は先生が次代のデザイナーにこの技術を伝えるために、時間と努力を費やしたことに称賛をお送りします。先生の著書は私にインスピレーションを与えてくれました。私は、宇宙構造物に関する同じ種類のものを成し遂げることに取り掛かりたいと思います。

敬具

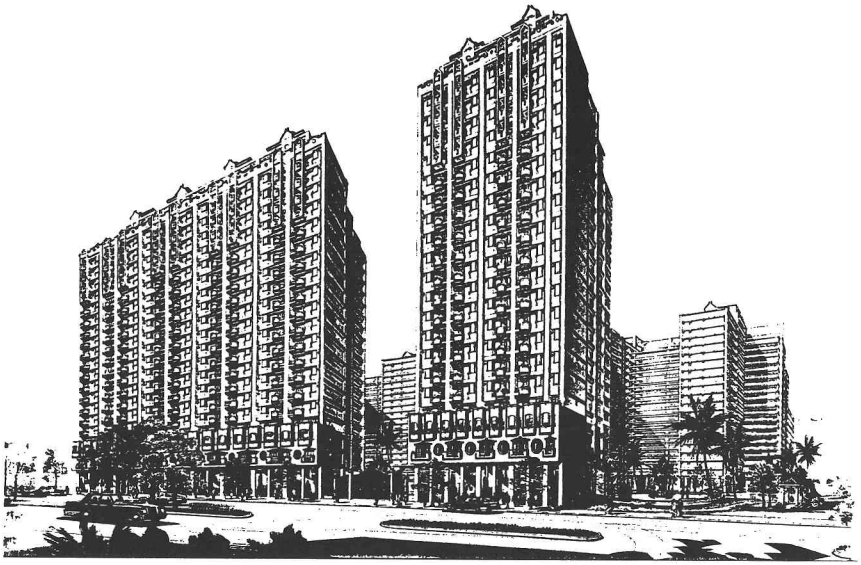
マーティン・Ｍ・ミクラス・Ｊｒ.

宇宙工学教授

17. 楊君の事務所

台灣操作研究工程顧問有限公司
TAIWAN OPERATION RESEARCH STRUCTURE (T.O.R.S.)
T.O.R.S. 設計理念：
在現今21世紀，因爲科學技術的進步，產業結構的變化，社會的變遷種種的因素，使得人類的生活變得更加多元化，複雜化。因此對於建築物居住環境的要求從傳統建築，逐漸地變爲多樣化，精緻化，更能夠合乎人類高品質生活的建築，從今之後一定會成爲人們所追求的。在建築的過程中，影響建築物的因素包括了設計，結構，材料，施工種種的因素，然而在此地震頻繁的台灣，建築結構卻是大家所容易忽略的因素之一。以往結構設計對於建築設計者無法提供各種的結構型態，因此 T.O.R.S. 引進許多先進國家美國，日本的設計理念，技術，以提供建築設計者更能夠突破以往的種種限制，設計出更具有特色，耐震安全性上更有保障的建築物。尤其以結構設計來輔助建築設計，更是本公司所一貫追求的理念。
因此 T.O.R.S. 不斷地操作研究各國先進技術，但願能夠協助各位建築設計者創造出更具有特色，有個性的作品，在這美麗的寶島……台灣。
T.O.R.S. 服務項目：
提供各種的結構規劃系統
解決建築設計過程中結構上的問題
提供姊美大型工程公司技術服務
提供日本，歐美及本國設計技術
提供最新日本設計參考資料
其它等等建築土木問題
T.O.R.S. 技術指導：
結構名家日本早稻田大學教授 松井源吾博士

楊君構造担当の
20 階建の集合住宅

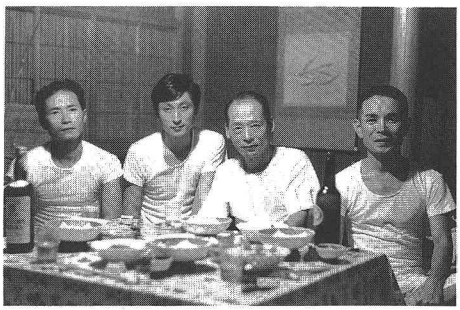


台研工程顧問有限公司
(T.O.R.S.)

楊　振　亮　早稲田大學
建築工學碩士
顧問：松井源吾

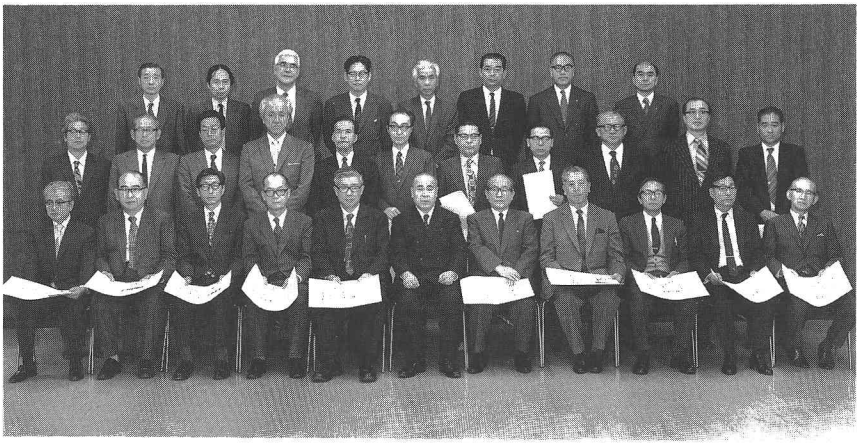
台北公司：台北市光復南路612號5F
TEL：(02)7030882
FAX：(02)7030883
台中公司：台中市河南路二段262號10F-10
TEL：(04)2551257・2551042
FAX：(04)2551260
統一編號：86350639

18.　古いアルバムより



40 年前尾道にて　蛭田先生，宮地君，林君と（宮地君より）

1964. 9. 29
事務所のバス旅行



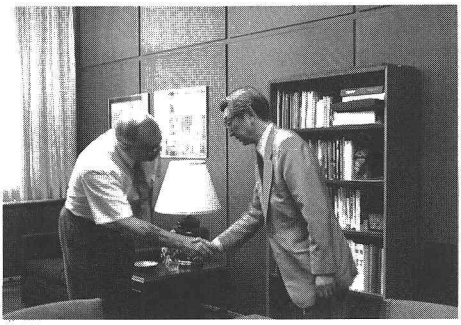
昭和48年度永年勤続教職員表彰式　　S.48.10.12

1973

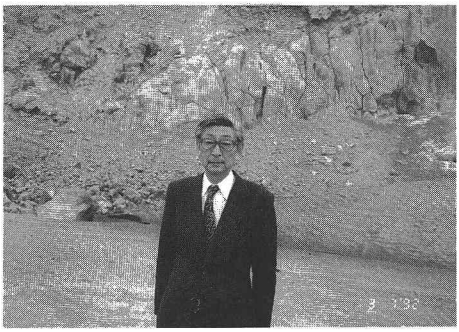
1976. 3. 12
蛭田先生の会二次会
牧　舎

1980. 6. 7　還暦　オークラ

1982. 6
松井研



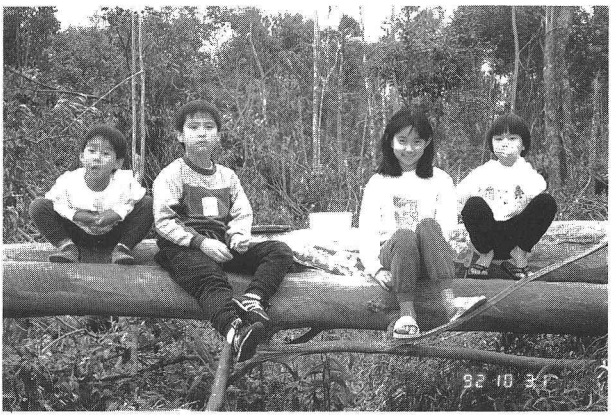
1989. 8. 30　クレムソン大学



1992. 7. 3　カムチャツカ火山口

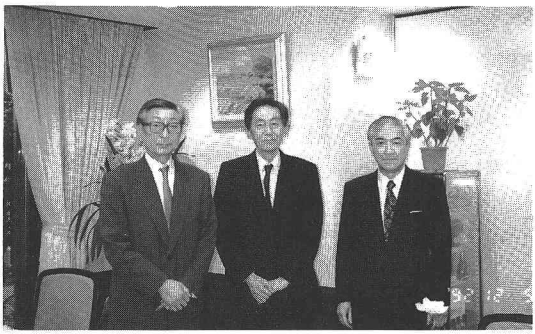
19.　最近のアルバム

早稲田大学　文学部研究室棟竣工式（92. 11. 9）



ブラジルの従妹　馬場良子さんのお孫さん達（良子さんより）

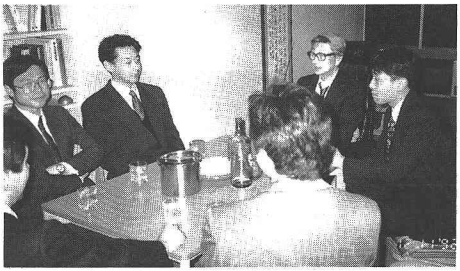
良子さん一家と，
スウェーデン人の
妹さんの御主人（同）

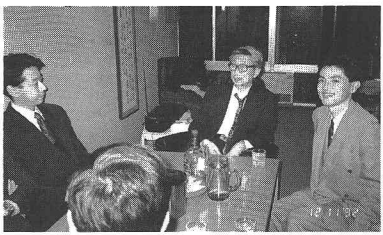


徳永先生，田中さんと
（92. 12. 5　牧舎）

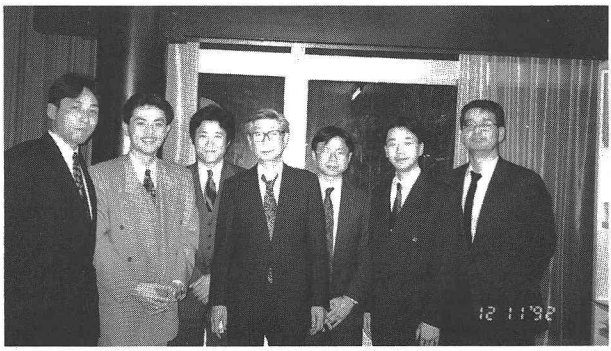
清水松井会忘年会
（92. 12. 11　恵比寿）

同

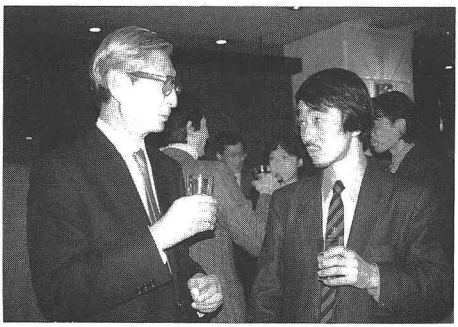




同二次会（わが家）



吉阪先生 13 回忌
(92. 12. 19　池袋)

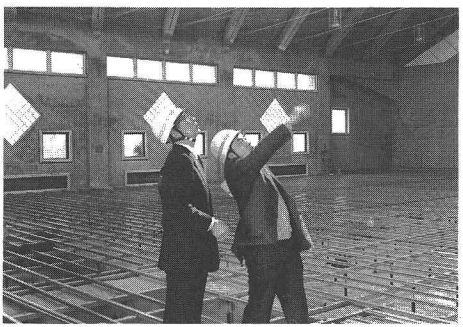


両叔父（92. 12　修之助宅）

川鉄建材忘年会
（92. 12. 22　新橋）

佐渡中学クラス会
（93. 1. 24　新宿）

大成松井会
(93. 1. 29　スカイレストラン「レダ」)

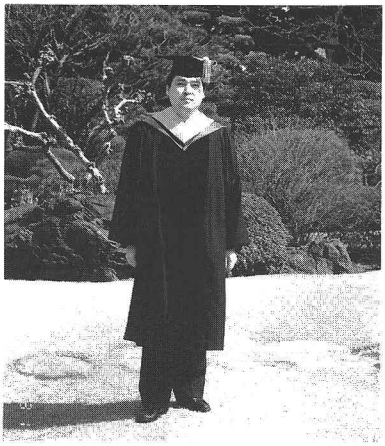


青年の家現場　(93. 2. 19　長瀞)

松尾工務店の方々，三浦君と　（93. 3. 5　横浜）

宋君博士のお祝い
（93. 3. 18
雅叙園観光ホテル）

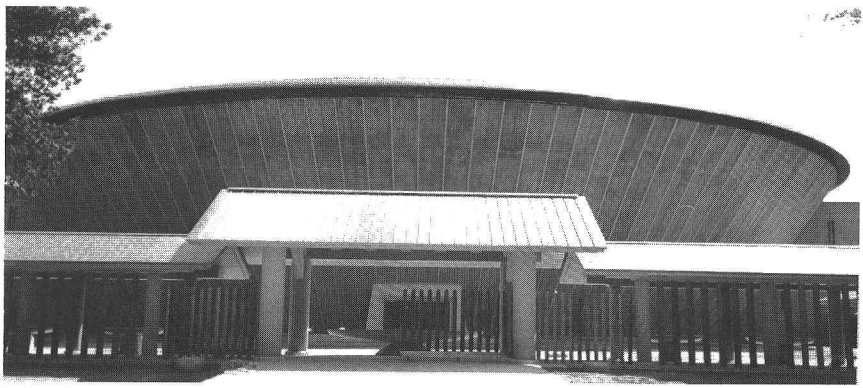
同二次会（わが家）



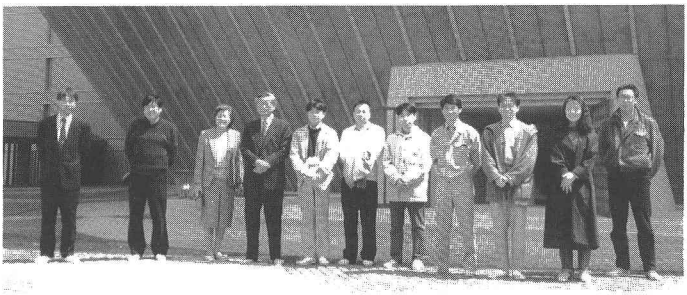
宋博士（93. 3. 19　大隈庭園）

明治学院大学竣工式（93. 3. 22）

松井記念会の二次会
（93. 4. 2　わが家）

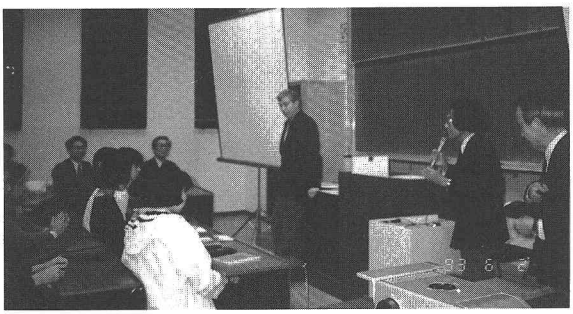


納骨堂 ORS 総見
(93. 4. 8)
(前頁同じ)



ハザマ松井会
(93. 4. 16
雅叙園観光ホテル)

同二次会
(わが家)



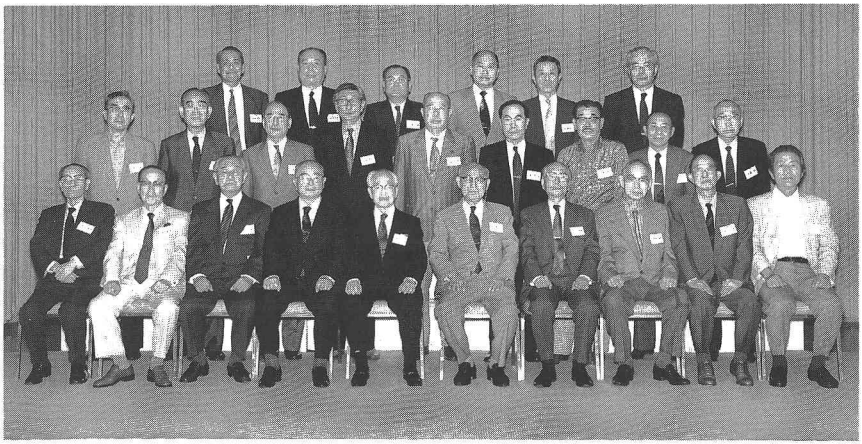
ロバートソン氏講演
(93. 6. 2　武蔵工大)

同

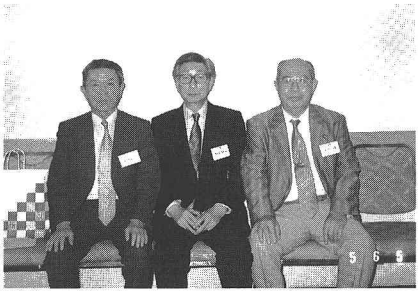
カリツキー教授送別会
(93. 6. 3　新橋みみう)

同二次会(都ホテル　バー)

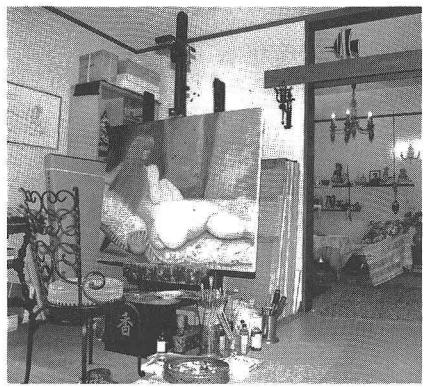
宋君からのお祝い
青磁透刻二重酒瓶と法酒
(93. 6. 4)



佐高六日会第76回例会　平成5年6月5日　於NHK青山荘



同級生，六日会にて



同級の画家　小出泰弘君と彼のアトリエ（93. 6）

20. 雑　談

志賀直哉が

「武内宿禰より二代多い」といったという話

——1993．5，「図書」，阿川弘之——

直哉は学習院，明治天皇が行幸された，大正天皇は三年ちがいの上級生，昭和天皇には戦後度々お眼にかかっている。

昭和37年に，当時の皇太子御夫妻と浩宮にお眼にかかったとき，そういったということである。

北方四島

——司馬遼太郎「ロシアについて」

1986．文芸春秋社——

ヤルタ協定の第1項は

　外蒙古の現状が維持されること

第3項が

　千島列島が，ソ連に引き渡されることだと。

中国の要人が日本に来ると，北海道の東端まで行って，その返還についてコメントを繰り返すのは，

　「外蒙を中国に返せ」

と暗に叫んでいたにちがいない。

ロシア史においては，他民族の領土をとった場合，病的なほどの執拗さでこれを保持してきた，と。

私は，20年余り前のモスクワ出張の時，モスクワ北方70 kmのザゴースクに行った。ここはロシア正教のメッカである。広い敷地のお寺は，高い城壁に囲まれている。ポーランドが攻めて来た時，住民が何年間も，ここにたてこもったそうだ。

古くは蒙古，近くはナポレオン，ヒットラー。

どこまで領土を拡げても，心配なのであろう。「病的なほど」に。

昨夏，極東ロシア旅行で，日本の中古車をたくさん見かけた。もとの所有者の会社名などがそのままである。外車であることを誇示しているのだそうだ。

ある週刊誌に「北方領土返還」と書いた，右翼の中古車が走っていた，とあった，少々出来すぎではないかと思う。

伊沢蘭奢

——夏樹静子「女優X」

1993．文芸春秋社——

全然知らない，女優の話である。

読みはじめると，森鷗外，ついで徳川夢声が登場，驚いた。皆，津和野出身なのである。その変った芸名は，鷗外の「伊沢蘭軒」から，久米正雄がつけたものだという。

「伊沢蘭奢は，松井須磨子亡きあと，築地小劇場の女優たちが花開くまでの約10年間，新劇界を支えて短くも鮮やかに燃えつきた人」と。

1918年（大正7年）初舞台，1928年（昭和3年）に亡くなった。38歳。

この人，1917年，幼い子供がいるのに，夫と離婚，女優になるために津和野を出て上京したのだからすごい。

夢声とはロマンスがあり，若き川口松太郎は片思いであった。三人とも自叙伝を残していて，お互いについて書いているのである。

本のカバーに顔写真が載っている，魅力的な人である。

蘆原英了によれば，「桜の園」のラネーフスカヤ夫人を演じた伊沢蘭奢は，後の築地小劇場の東山千栄子の同じ役に比べて，はるかにすばらしかった，と。

私が見た「桜の園」は，戦後すぐの文学座で，やはり東山千栄子だった。娘役は，丹阿弥谷津子だった。

「短くも鮮やかに燃えつきた，38歳」で，恩師川島定雄先生を思った。

川島先生のあの厚い論文集の論文，僅々10年間のお仕事である，亡くなられたのは38歳である。

「学生一流，設備二流，教員三流」

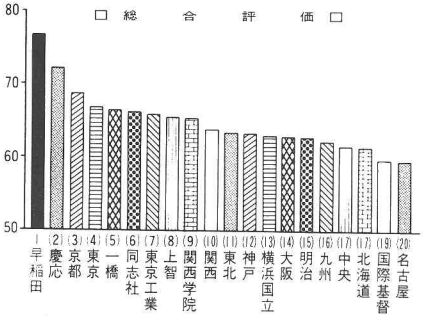
昨年だったか，ある会合に出たら，これは早稲田のことと，週刊誌に出ていたと。

「私がやめたせいかな」と，いったものである。

大学の広報に，次のような調査が載っている。

“役に立つ大学”調査、2年連続で第1位

——人事部長による新大学ランキング——



㈱ダイヤモンド社では、今年3月、上場企業等の人事部長を対象に100大学のOBを評価するアンケート（第2回）を実施。314件の回答から、合計点を偏差値化しランキングを作成しました。その結果、本学は11項目の質問のうち9項目でトップになるなど、昨年に続き非常に高い評価を受けました。特に「個性的」「大器晩成」「精神的な自立」などの項目で、2位以下を大きく引き離し、本学の校風への評価は健在のようですが、一方で「大学のカラーを残しているのはトップクラスの学生だけだ」というコメントもあります。（'93.4.17 週刊ダイヤモンド）

質問項目	本学順位	本学偏差値
①大学での学習	14位	63.08
②個性がある	1位	78.80
③要領のよさ	1位	75.89
④大器晩成度	1位	75.75
⑤組織適応・運営力	1位	73.89
⑥昇格可能性	1位	76.86
⑦営業部門への適性	1位	75.27
⑧間接部門への適性	1位	73.56
⑨国際業務への適性	5位	70.75
⑩精神的自立度	1位	78.03
⑪採用数減でも採用したい	1位	74.89

「大学での学習」が14位というのは，設備，教員が劣っているということであろうか。

それにしても会社の人事部長がどうして，「大学での学習」状態がわかるのだろうか。

「役に立つ学生」を送り出しているとすれば，大学での学習が充分であることの証明だと思うのだが。

著者略歴

1920年 6 月　佐渡に生る
1943年 9 月　早稲田大学理工学部
　　建築学科卒業
1948年12月　早稲田大学専任講師
1952年 4 月　同助教授
1960年 1 月　工学博士
1961年 4 月　早稲田大学教授
1968年 5 月　日本建築学会賞(作品)
1990年 6 月　日本光弾性学会賞
1991年 4 月　早稲田大学名誉教授
1993年 5 月　日本建築学会賞(業績)

93. 6. 18　都ホテル

縞－その 19－　　非売品

発　行　　平成 5 年 9 月　　©

編著者　　松井源吾
〒952-03　新潟県佐渡郡真野町新町458番地
電　話　　0259 (55) 2393
製　作　株式会社　土木春秋社
〒151　東京都渋谷区代々木2-23-1
電　話　　03 (3370) 5020